第14回日本リーグ

湧永製薬（男子）大崎電気（女子）が抜き出た強さを見せて制する

第14回日本リーグの後期は、10月5日まで、全国各地の会場で開催された。

その結果、男子は湧永製薬が9勝1分で昨年の雪辱を果たして4回目の優勝を飾った。一方の女子は大崎電気が10戦全勝でリーグ3連覇を飾った。

男子

◇10月8日（日）富山総合体育館

日新製鋼22（15−8、7−13）21大崎電気

〔戦評〕前半、大崎が宮下、首藤の大砲コンビで9得点をあげる活躍で主導権を握った。

しかし、後半日新は積極的に前に出て大砲を押え、速攻を中心に追い上げて、残り3分に高木のミドルシュートで同点に追いついた。

28分、大崎・宮下の得点で突き放したかに見えたが、29分日新・藤井のポストで同点に、そして残り3秒で武田の劇的なカットインシュートが決まり、日新が逆転勝利を収めた。

	〔大崎〕	得	〔日新〕	得
GK	渡辺	0	森田	0
GK	矢内	0	宇田川	0
FP	松岡	0	武田	5
FP	大和田	2	西山	6
FP	武田	1	高木	4
FP	首藤	7	甲斐	0
FP	中田	0	藤井	3
FP	山本	2	日野	0
FP	甲斐	2	堀田	0
FP	菅田	0	池田	1
FP	宮下	7	野中	0
FP	魚住	0	木村	3
PT	(2)	21	(2)	22

（審・阿部羅　古橋）

◇10月8日（日）岡山県営体育館

湧永製薬28（13−10、15−11）21大同特殊鋼

〔戦評〕前半開始後、大同が明石のシュートなどでリード。湧永もすぐに追いついて逆転、大同も中盤再び同点とするなど一進一退の展開。その後、湧永が奥田のサイドシュートなどで15−11とリードして前半を終了。

後半に入っても大同がよく粘りを見せて、一進一退のゲーム展開を見せたが、GKを中心に固い守りを見せた湧永がリードを守って逃げ切った。

	〔大同〕	得	〔湧永〕	得
GK	秋吉	0	徐	0
GK	林	0	井藤	0
FP	田中	3	酒巻	5
FP	内藤	1	河原	3
FP	高村	6	玉村	4
FP	朝生	1	堀田	4
FP	畑	0	新井	0
FP	明石	8	長沢	5
FP	河井	0	荷川取	0
FP	植木	0	鎌塚	0
FP	佐藤	2	奥田	3
FP	阿萬	0	楢原	4
PT	(1)	21	(0)	28

（審・北山　大原）

◇10月8日（日）佐久市総合体育館

本田技研鈴鹿32（15−11、17−7）18三陽商会

〔戦評〕本田が立木のロング、山村、真砂のサイドで着実に得点、三陽GK高橋も懸命にキーピングするも、ほとんどノーマークのシュートのため前半で大量リードを許した。

後半に入っても、本田の厚いディフェンスとGK橋本の再三にわたる好キーピングに阻まれ、三陽は思うように得点が伸びず敗退した。

	〔三陽〕	得	〔本田〕	得
GK	宇田川	0	高木	0
GK	高橋	0	橋本	0
FP	浜川	2	真砂	3
FP	飯島	4	福島	3
FP	田口	0	立木	8
FP	大坪	1	尾上	1
FP	砂川	0	内藤	3
FP	山口	5	栗谷	3
FP	浜田	4	田口	3
FP	河村	0	平松	1
FP	近藤	2	山本	1
FP	関	0	山村	6
PT	(0)	18	(1)	32

（審・加藤　高田）

◇10月10日（火）秋田・湯沢高校体育館

大同特殊鋼26（10−14、16−9）23三陽商会

〔戦評〕前半、大同・明石、三陽・飯嶋のロングが決まり、互角のすべりだしだったが、5分頃から大同の4連続得点が流れを決め、主導権を握った。

後半、三陽GK宇田川の好守により大同を苦しめたが、今一歩およばなかった。

	〔三陽〕	得	〔大同〕	得
GK	宇田川	0	秋吉	0
GK	高橋	0	林	0
FP	浜川	4	田中	5
FP	飯島	8	内藤	0
FP	田口	0	高村	3
FP	大坪	0	朝生	5
FP	砂川	4	畑	0
FP	山口	2	明石	8
FP	浜田	2	河井	0
FP	河村	0	植木	0
FP	近藤	3	佐藤	5
FP	関	0	阿萬	0
PT	(1)	23	(3)	26

（審・半田　菅野）

◇10月15日（日）徳島市立体育館

湧永製薬27（15−13、12−10）23大崎電気

〔戦評〕前半、確実に湧永が得点差を開く一方であったが、大崎も前半終了間際5連続得点をあげて2点差として折り返した。

	〔大崎〕	得	〔湧永〕	得
GK	渡辺	0	徐	0
GK	矢内	0	井藤	0
FP	松岡	0	酒巻	10
FP	大和田	0	河原	3
FP	武田	2	玉村	8
FP	首藤	8	堀田	4
FP	中田	2	新井	0
FP	山本	2	長沢	0
FP	甲斐	0	荷川取	2
FP	菅田	2	鎌塚	0
FP	宮下	5	奥田	0
FP	魚住	2	楢原	0
PT	(2)	23	(1)	27

（審・島崎　井上）

後半も湧永リードで進んだが、中盤から大崎も詰め寄り、白熱した戦いとなった。しかし、湧永はチャンスを確実に生かし、GK井藤の活躍で大崎の反撃を封じて快勝した。

◇10月15日（日）
清水市営体育館

本田技研鈴鹿 28（18—14 10—12）26 日新製鋼

〔戦評〕日新は武田からのパスを起点としたポストからの得点を中心にプレス気味のディフェンスから本田のシュート、パスのミスを誘発させ、それを速攻に結びつけた。本田もディフェンスを固め追撃し、6—9まで追い上げたが、ここでもPTを日新GKに止められるなどして一気に差を縮めることができない。前半終了近くなって本田・田口がシュート時に日新のラフプレーにあって床に後頭部を強打して退場、以後の展開に不安を抱かせた。

しかし後半に入り、田口の退場に発憤した本田が、迫力ある速攻を連続して決めて一気に逆転。その後、本田・立木、日新・西山の打ち合いになり、両チームディフェンスの足が止まりだしたこともあり乱戦となったが、これをしのいだ本田が大事な試合をものにした。

得	〔本田〕		〔日新〕	得
0	高木	GK	森田	0
0	橋本		宇田川	0
7	真砂	FP	武田	4
0	福島		西山	10
6	立木		高木	3
0	尾上		甲斐	0
2	内藤		藤井	0
7	粟屋	（審・渡辺 楓）	日野	0
0	田口		堀田	3
0	平松		池田	2
0	山本		野中	2
6	山村		木村	2
28	(2)	PT	(5)	26

◇10月21日（土）
岩井市総合体育館

湧永製薬 29（12—13 17—8）21 三陽商会

〔戦評〕前半立ち上がりから湧永ペース。三陽は湧永ディフェンスを攻めあぐみ、10分で6—1と差をつけられる。以後も湧永が着々と加点、17—8と大きくリードを奪って前半を終了。

後半に入ると湧永の攻撃が少し雑になり、三陽が懸命の追い上げを見せたが、それも中盤まで。終盤再び湧永が玉村のシュートなどで加点、結局前半のリードを守って逃げ切った。

得	〔湧永〕		〔三陽〕	得
0	徐	GK	宇田川	0
0	井藤		吉田	0
3	酒巻	FP	浜川	5
6	河原		飯島	4
9	玉村		田口	0
2	堀田		大坪	1
2	新井		砂川	2
3	長沢	（審・矢澤 谷萩）	山口	5
2	荷川取		浜田	4
0	鎌塚		吉原	0
2	奥田		近藤	0
0	檜原		関	0
29	(3)	PT	(2)	21


本田・立木の回り込み

◇10月22日（日）
青森県民体育館

本田技研鈴鹿 29（13—13 16—8）21 大崎電気

〔戦評〕本田は前半のスタートからよく走り、山村、平松の速攻、セットでは田口の好配球から粟屋のポストと多彩な攻撃を見せて着々と加点、立ち上がりから大崎を引き離した。大崎はあせりからかシュートミスが多く、本田の速攻を許して、前半で16—8と大きくリードを奪われた。

後半に入り、大崎も互角の展開にもち込んだが、前半の点差を詰めるまでには至らず、本田が快勝した。

得	〔本田〕		〔大崎〕	得
0	高木	GK	渡辺	0
0	橋本		矢内	0
4	真砂	FP	松岡	1
4	福島		大和田	1
5	立木		武田	6
0	尾上		首藤	4
2	内藤		中田	0
4	粟屋	（審・小友 谷藤）	山本	3
1	田口		菅田	1
5	平松		熊谷	1
0	山本		相馬	1
4	山村		宮下	3
29	(2)	PT	(3)	21

◇10月22日
群馬・富岡高校体育館

大同特殊鋼 21（12—9 9—9）18 日新製鋼

〔戦評〕前半立ち上がりから一進一退の展開。中盤大同がリードを奪ったが、終盤日新が3点を連取、

9—9の同点として前半を折り返した。

後半もほぼ互角の立ち上がりであったが、大同は中盤、日新PTをGKが阻むなどの好守を見せてじりじりとリードを奪い、3点差をつけて逃げ切った。

〔日新〕	得		〔大同〕	得
森田	0	GK	秋吉	0
宇田川	0	GK	林	1
武田	2	FP	田中	3
西山	3	FP	内藤	3
高木	4	FP	高村	6
甲斐	1	FP	朝生	2
藤井	0	FP	畑	0
日野	0	FP	明石	5
堀田	3	FP	河井	0
池田	1	FP	植木	0
野中	2	FP	佐藤	1
木村	2	FP	阿萬	0
	18			21
PT	(4)	PT	PT	(2)

（審・中山 大出）

◇10月29日（日） 大分県立総合体育館

本田技研鈴鹿21（11—12、10—8）20大同特殊鋼

〔戦評〕本田が平松の速攻でスタートしたが、大同は朝生、明石、田中、佐藤らのシュートで4点を連取、ゲームをリードする。本田が内藤、立木のロング、真砂のサイドで追いかけ、大同が朝生、内藤のポストで逃げるという展開。18分、本田が平松のポストで8—8の同点に追いつき、以後一進一退の激しい展開。大同が明石のロングで12—11と1点をリードして前半を終了。

後半はスピーディな速攻の攻め合いとなるが、大同・秋吉、本田・橋本の両GKの好守で盛り上がりを見せる。終始大同のリードの展開で進んだが、本田は真砂のサイドで同点に追いつく。一進一退の激しい攻防が続いたが、残り1分、本田・山村が回り込んで決め、逆転勝利を収めた。

〔大同〕	得		〔本田〕	得
秋吉	0	GK	高木	0
林	0	GK	橋本	0
田中	3	FP	真砂	3
内藤	2	FP	福島	0
高村	0	FP	立木	5
朝生	6	FP	尾上	0
畑	0	FP	内藤	2
明石	7	FP	粟屋	1
河井	0	FP	田口	2
植木	0	FP	平松	2
佐藤	0	FP	山本	0
阿萬	0	FP	山村	6
	20			21
PT	(3)	PT	PT	(0)

（審・大宮 切通）

◇10月29日（日） 松山市コミュニティー体育館

湧永製薬24（15—13、9—9）22日新製鋼

〔戦評〕前半、日新は武田のミドル、湧永は速攻、サイドなどで一進一退の攻防が続いたが、日新は湧永のエース玉村に対して厚いディフェンスを敷く一方、速攻によって得点を重ね、リードを広げる。前半残り10分を切ってから日新の足が止まり、湧永が堀田の速攻、玉村のロングなどで連続得点をあげて逆転、2点差で折り返す。

後半、湧永はディフェンスを固める一方、酒巻、奥田のポストでリードを広げる。なかば過ぎから日新は西山の速攻、ロングなどで追い上げたが、一歩及ばなかった。

〔日新〕	得		〔湧永〕	得
森田	0	GK	徐	0
宇田川	0	GK	井藤	0
武田	4	FP	酒巻	6
西山	8	FP	河原	4
高木	1	FP	玉村	4
甲斐	1	FP	堀田	4
藤井	2	FP	新井	0
日野	0	FP	中川	0
堀田	0	FP	長沢	1
池田	1	FP	荷川取	1
野中	1	FP	奥田	4
木村	4	FP	楢原	0
	22			24
PT	(3)	PT	PT	(1)

（審・山根 岡村）

◇10月29日（日） 岩手県営体育館

大崎電気35（16—8、19—12）20三陽商会

〔戦評〕試合は前半から終始大崎ペースの展開となる。三陽は大崎の堅いディフェンスを攻めあぐみ、なかなか得点を伸ばすことができない。逆に大崎は多彩な攻撃を見せて着々と加点、前半で16—8と大差をつけた。

三陽も後半に入って懸命の反撃を試みるが、大崎は攻撃の手をゆるめず、大量得点で快勝した。

〔三陽〕	得		〔大崎〕	得
吉田	0	GK	渡辺	0
高橋	0	GK	矢内	0
浜川	3	FP	松岡	0
飯島	5	FP	大和田	1
田口	0	FP	武田	7
大坪	0	FP	首藤	7
砂川	2	FP	中田	4
山口	6	FP	山本	0
浜田	4	FP	菅田	1
吉原	0	FP	熊谷	1
近藤	0	FP	相馬	6
関	0	FP	宮下	8
	20			35
PT	(1)	PT	PT	(1)

（審・小友 谷藤）

◇11月4日（土） 四日市市体育館

湧永製薬20（10—9、10—10）19本田技研鈴鹿

〔戦評〕本田が、立木のシュートで先制したものの湧永は速い攻撃で10分には6—3とリードを奪う。本田もその後よく追い上げ、25分には8—8の同点とし、結局10—9と1点差で前半を折り返す。

後半に入って、湧永は多彩な攻撃で得点、6分には16—11とリードを広げる。本田はGKに橋本の再三にわたる好守で勢いに乗り、22分には17—17と追いつき、25分には山村のシュートでいったんはリードしたが、湧永が直後に追いつき、28分に奥田が決勝のゴールを決めて辛くも粘る本田をふり切った。

〔本田〕	得		〔湧永〕	得
高木	0	GK	徐	0
橋本	0	GK	井藤	0
真砂	4	FP	酒巻	3
福島	0	FP	河原	5
立木	4	FP	玉村	5
尾上	0	FP	堀田	2
内藤	1	FP	新井	0
粟屋	4	FP	中川	0
田口	0	FP	長沢	1
平松	1	FP	荷川取	3
山本	0	FP	奥田	1
山村	5	FP	楢原	0
	19			20
PT	(3)	PT	PT	(3)

（審・岩永 細井）

◇11月4日（土） 岐阜県民体育館

日新製鋼31（17—8、14—11）19三陽商会



湧永・酒巻のジャンプシュート

〔戦評〕日新の出足の良いディフェンスにミスをくり返す三陽に対し、巧みなパス回しから豪快なロングシュートを打ち込む日新の一方的ともいえる試合展開となり、前半は17－8で終了。

後半の立ち上がり、ディフェンスで踏んばり、4点を連取して追い上げムードになった三陽だが、その後日新はGK宇田川の好守で再びリズムを取り戻し、余裕をもって勝利をものにした。

得	〔日新〕		〔三陽〕	得
0	谷	GK	宇田川	0
0	宇田川	GK	高橋	0
5	武田	FP	浜川	5
6	西山	FP	飯島	4
5	高木	FP	田口	0
2	甲斐	FP	大坪	0
1	藤井	FP	砂川	4
2	日野	FP	山口	0
0	堀田	FP	浜田	3
2	池田	FP	吉原	0
2	野中	FP	近藤	3
6	木村	FP	関	0
31	(2)	PT	(5)	19

（審・秋山・川合）

◇11月5日（日） 愛知・枇杷島体育館

大崎電気30〔17－12 13－9〕21大同特殊鋼

〔戦評〕3分、大同・高村の右よりのミドルシュートが入ってからは得点が動き始め、大崎は首藤のミドル、宮下のロングで、大同は田中の速攻、明石のミドルで得点、13－9で前半を終了。後半、大崎は大同のポストへのパスをカットするなどして着々と得点を加え、リードを広げて勝利を飾った。

得	〔大崎〕		〔大同〕	得
0	渡辺	GK	秋吉	0
0	矢内	GK	林	0
0	松岡	FP	田中	5
0	大和田	FP	内藤	3
2	武田	FP	高村	6
5	首藤	FP	朝生	1
0	中田	FP	畑	0
5	山本	FP	明石	5
4	甲斐	FP	植木	0
4	菅田	FP	佐藤	1
2	相馬	FP	名取	0
8	宮下	FP	阿萬	0
30	(1)	PT	(0)	21

（審・山本・田中）

〔最終順位〕

①湧永製薬（9勝1分）
②本田技研鈴鹿（6勝2分2敗）
③日新製鋼（5勝1分4敗）
④大崎電気（4勝1分5敗）
⑤大同特殊鋼（3勝1分6敗）
⑥三陽商会（10敗）

〈個人表彰〉

▼ベストプレーヤー賞

GK 橋本 行弘（本田）
FP 玉村 健次（湧永）
西山 清（日新）
首藤 信一（大崎）
高村 誠一（大同）
酒巻 誠治（湧永）
宮下 和広（大崎）

▼最優秀監督賞

服部 秀人（湧永）

最高殊勲選手賞

玉村 健次（湧永）

▼得点王

玉村 健次（湧永） 63点

▼フィールドゴール賞

立木 浩二（本田） 57点

▼最高得点率賞

粟屋 敏則（本田） 0・725

▼ペナルティー得点賞

濱川 康一（三陽） 20点

▼ペナルティー獲得賞

甲斐 幸平（日新） 13回
高村 誠一（大同） 13回

▼新人賞

宇田川竜也（日新）

女子

◇10月7日（土） 熊本県総合体育館

大和銀行28〔15－13 13－9〕22立石電機山鹿

〔戦評〕開始早々、大和は速い攻撃で袰川、藤本らが立て続けに得点、たちまち4－1。立石もすぐさま反撃、比嘉の活躍で7分過ぎに4－4の同点に追いつく。その後一進一退の点の取り合いが続き17分過ぎに大和が8－7と1点リード。そのまま攻撃スピードに上回る大和が前半を13－9と4点リードして折り返す。

後半1分、立石は山内が退場。5分間双方無得点が続く。8分過ぎに再び山内が退場。その間に大和・上村が決めて16－11。立石も野崎のステップシュートなどで反撃、20分過ぎには21－19と2点差にまで詰め寄る。しかし、立石の反撃もここまで、大和・袰川のロングが立て続けに決まり、突き放された。

得	〔大和〕		〔立石〕	得
0	増見	GK	前川	0
0	岡田	GK	川島	0
2	丸田	FP	横田	1
5	鈴木	FP	山内	1
4	袰川	FP	中山	1
5	上村	FP	武津	4
3	小池	FP	野嶋	7
6	藤本	FP	橋本	0
1	渡辺	FP	斉藤	1
0	木瀬	FP	石村	3
2	松田	FP	古田	1
0	瀬川	FP	比嘉	3
28	(3)	PT	(0)	22

（審・森山・高橋）

◇10月8日（日） 岡山県営体育館

大崎電気38〔19－8 19－12〕20ジャスコ

〔戦評〕前半立ち上がりから大崎が攻守ともに圧倒、着々と加点して19－12とリードを奪って前半を折り返す。

後半に入っても、大崎は金、尹の両ポイントゲッターがすばらしい得点力をみせて着々と得点を重ね、ジャスコも川井のサイドなどで粘りを見せたが、得点力に差があって及ばなかった。

得	〔大崎〕		〔ジャス〕	得
0	佐々木	GK	小深田	0
0	宗片	GK	小林	0
0	森田	FP	佐々木	5
3	藤井	FP	石田	2
3	前川	FP	常石	0
3	梅原	FP	川井	4
3	江口	FP	池田	4
0	鷲宮	FP	東出	0
1	野田	FP	寿系	1
16	金	FP	稲田	0
0	福井	FP	今井	1
9	尹	FP	王	3
38	(2)	PT	(2)	20

（審・武智・松原）

◇10月8日（日） 佐久市総合体育館

日本ビクター19〔10－8 9－11〕19シャトレーゼ

〔戦評〕1点を争う好ゲームを展

開した。

ロング、速攻と多彩な攻撃を見せるビクターに対し、ポストをからめた攻撃のシャトレーゼが共に一歩も譲らぬ大接戦を見せた。残り3分まで1点をリードしていたビクターに退場者が出て、PTを決めたシャトレーゼが同点に追いつき結局双方ともに譲らぬまま19－19で引き分けた。

得	〔シャト〕		〔日ビ〕	得
0	丸山	GK	小口	0
0	工藤	GK	山田	0
1	小松	FP	長田	7
1	島崎	FP	枝川	3
0	海道	FP	下條	2
5	松沢	FP	平松	0
0	黒沼	FP	太田	0
0	小林	FP	工藤	2
3	小野寺	FP	永岡	0
9	山岸	FP	山之内	2
0	成田	FP	中村	3
0	鶴田	FP	浜口	0
19	(8)	PT	(3)	19

（審・金森、八日市屋）

◇10月15日 徳島市立体育館

大崎電気 35（18－8、17－15）**23 大和銀行**

〔戦評〕前半は、大和が果敢な攻撃展開を見せ、互いに激しい得点の奪い合いとなった。大崎は、大和の健闘の前に粗い攻撃が目立ち、前半終了間際にやっと連続得点して2点をリードして折り返した。

しかし、後半に入ると地力に勝る大崎が着々と加点、健闘を見せていた大和も力つきた。

得	〔大崎〕		〔大和〕	得
0	佐々木	GK	増見	0
0	宗片	GK	簗田	0
4	藤井	FP	丸田	1
4	前川	FP	鈴木	4
4	梅原	FP	巽川	4
5	江口	FP	上村	5
0	鷲宮	FP	小池	0
4	野田	FP	藤本	5
7	金	FP	渡辺	1
0	福井	FP	木瀬	0
7	尹	FP	松田	3
0	田中	FP	瀬川	0
35	(4)	PT	(3)	23

（審・野中、竹村）

◇10月15日（日） 清水市営体育館

日本ビクター 27（13－8、14－12）**20 ジャスコ**

〔戦評〕ビクターは山之内の目のさめるようなロングシュートとその直後のPTで順調なすべり出しかと思われたが、ジャスコもGK小深田の好守をきっかけにすぐに反撃に転じ、スピーディな持ち味を発揮して好ゲームとなった。その後、ビクター・武藤欠場の影響のキーポイントを握る長田が要所のPTを確実に決め、ゲームの流れをコントロールし前半を終了。

後半に入り、ジャスコはビクターの長田にマンツーマン・ディフェンスをとるが、ビクターは枝川らがポスト、サイドから決め、ジャスコは得点差を詰めることができなかった。

得	〔日ビ〕		〔ジャス〕	得
0	小口	GK	小深田	0
0	山田	GK	小林	0
12	長田	FP	佐々木	4
5	枝川	FP	石田	1
2	下條	FP	常石	2
0	平松	FP	川井	3
2	太田	FP	池田	8
3	工藤	FP	寿系	0
1	永岡	FP	稲田	0
1	山之内	FP	今井	0
1	中村	FP	小沼	0
0	小松	FP	王	2
27	(5)	PT	(4)	20

（審・板倉、岩本）

◇10月15日（日） 山梨・緑ケ丘公園体育館

立石電機山鹿 29（15－6、14－12）**18 シャトレーゼ**

〔戦評〕前半立ち上がりから両チームとも動きが良く、点の取り合いのシーソーゲームとなったが、ペナルティー、コンビプレーなどで確実に得点を重ねた立石が2点リードして前半を終る。

後半に入ると、シャトレーゼは攻めあぐみ、オーバーステップなどのミスが目立ち、逆に立石は相手のミスにつけこんで速攻を連発、15分までに9点差をつけて勝敗を決定づけた。

得	〔立石〕		〔シャト〕	得
0	前川	GK	丸山	0
0	川島	GK	工藤	0
1	横田	FP	小松	2
0	山内	FP	島崎	0
5	中山	FP	海道	2
6	武津	FP	松沢	2
7	野嶋	FP	黒沼	0
0	橋本	FP	小林	0
1	斉藤	FP	小野寺	5
1	石村	FP	山岸	5
1	古田	FP	小友	1
7	比嘉	FP	鶴田	1
29	(2)	PT	(3)	18

（審・後藤、島田）

◇10月21日（土） 岩井市総合体育館

大崎電気 32（15－15、17－7）**22 日本ビクター**

〔戦評〕前半開始直後、山之内の得点でビクターは好スタートを切ったが、大崎の猛攻により大量リードを許した。特に大崎・金のゲームメークと得点が光った。

後半、ビクターは大崎の優勝を阻むべく速攻で得点したが、大崎も意地を見せて猛攻、激しい試合展開を見せ好ゲームとなった。

結局、総合力に勝る大崎が前半のリードを保って逃げ切り、3年連続5度目の優勝を決めた。

得	〔大崎〕		〔日ビ〕	得
0	佐々木	GK	小口	0
0	宗片	GK	山田	0
4	藤井	FP	長田	10
4	前川	FP	枝川	2
8	梅原	FP	下條	2
1	江口	FP	平松	0
0	鷲宮	FP	太田	4
1	野田	FP	工藤	0
6	金	FP	永岡	0
0	福井	FP	山之内	1
8	尹	FP	中村	3
0	田中	FP	小松	0
32	(5)	PT	(6)	22

（審・浜田、小笠原）

◇10月22日（日） 群馬・富岡高校体育館

大和銀行 21（12－10、9－6）**16 シャトレーゼ**

〔戦評〕前半立ち上がり、シャトレーゼ小松のカットイン、大和は藤本のサイドシュートで1－1とする。両チームともGK、ディフェンスの好守でなかなか得点があげられず、大和に2点目が入ったのは11分過ぎ。両チームともシュートが決まらず苦しい戦いとなったが、9－6と大和が3点リード

して折り返す。

後半、大和が上村のサイドシュートで10―6とするが、シャトレーゼも海道のロング、カットインで2点差とする。その後互いに点を取り合い一進一退の展開を見せたが、終盤大和がサイド、速攻で得点をあげてシャトレーゼを突き放した。

得	〔大和〕		〔シャト〕	得
0	増見	GK	丸山	0
0	簗田	GK	工藤	0
4	丸田	FP	小松	3
3	鈴木	FP	島崎	0
1	袰川	FP	海道	4
6	上村	FP	松沢	2
2	小池	FP	黒沼	3
3	藤本	FP	小林	0
0	渡辺	FP	小野寺	0
0	木瀬	FP	山岸	4
2	松田	FP	野沢	0
0	瀬川	FP	鶴田	0
21	(1)	PT	(1)	16

（審・田村、斉藤）

◇10月22日（日）
京都・西京極体育館

立石電機山鹿 22 ｛12―9、10―9｝ 18 ジャスコ

〔戦評〕開始早々、立石・中山のサイド、武津のロングで先行、10分過ぎには6―3で立石リードの中、互いにスピーディな攻守を展開する。その後は両GKの好守もあり一進一退が続くが、立石の走りがやや優位になり3点差で後半へ。

後半開始、ジャスコ・川井のカットインで始まり、ジャスコは5分、13分の立石2回の退場の間に同点とする。しかし、立石は野嶋のブラインド、比嘉のPTなどで再び突き放す。ジャスコも王のサイドで粘ったが、立石は終盤パスカットからの速攻、カットインでダメ押しをしてジャスコを突き放した。

得	〔立石〕		〔ジャス〕	得
0	前川	GK	小深田	0
0	川島	GK	小林	0
0	横田	FP	佐々木	4
1	山内	FP	石田	2
1	中山	FP	常石	1
7	武津	FP	川井	2
4	野嶋	FP	池田	4
0	橋本	FP	東出	0
0	斉藤	FP	寿系	0
5	石村	FP	稲田	1
0	古田	FP	今井	0
4	比嘉	FP	王	4
22	(1)	PT	(2)	18

（審・前川、秋永）

◇10月29日（日）
松山市コミュニティー体育館

大和銀行 23 ｛12―8、11―9｝ 17 ジャスコ

〔戦評〕前半開始後は両チームともに動きが固く、またジャスコGK小深田の好守もあり、5分過ぎまで両チームとも無得点が続く。5分過ぎの大和のPTからようやく得点が動きはじめ、大和・丸田のロング、ジャスコの速攻で一進一退の展開が続いたが、ロングの決定力に勝る大和が12―8とリードして前半を終了。

後半に入っても一進一退の攻防が続いたが、なかば過ぎ、大和の足が止まったところをジャスコが追い上げて2点差まで詰め寄る。しかし、ここでジャスコにPTの失敗が出て再び大和がリズムを取り戻し、23―17で勝利を飾った。

得	〔大和〕		〔ジャス〕	得
0	増見	GK	小深田	0
0	簗田	GK	小林	0
6	丸田	FP	佐々木	3
6	鈴木	FP	石田	3
5	袰川	FP	常石	4
1	上村	FP	川井	1
2	小池	FP	池田	3
1	藤本	FP	東出	0
0	渡辺	FP	寿系	0
0	木瀬	FP	稲田	0
2	松田	FP	今井	0
0	瀬川	FP	王	3
23	(5)	PT	(3)	17

（審・中本、渡辺）

◇10月29日（日）
大分県立総合体育館

立石電機山鹿 24 ｛12―7、12―13｝ 20 日本ビクター

〔戦評〕ビクター・下篠、立石・武津のロングでゲームが始わる。前半一進一退の展開を見せたが、立石が、ポスト、ロングなどでじりじりとリードを広げ、12―7と5点をリードして前半を終る。

後半のすべり出しも立石が良く、リードを広げたが、中盤ビクターが激しく追い上げ、残り10分には2点差としたが、立石が比嘉、武津のシュートで突き放して逃げ切った。

得	〔立石〕		〔日ビ〕	得
0	前川	GK	小口	0
0	川島	GK	山田	0
0	横田	FP	長田	7
1	山内	FP	枝川	0
2	中山	FP	下條	7
6	武津	FP	平松	0
3	野嶋	FP	太田	2
2	橋本	FP	工藤	0
0	斉藤	FP	永岡	1
3	石村	FP	山之内	2
0	古田	FP	中村	1
7	比嘉	FP	小松	0
24	(6)	PT	(3)	20

（審・高橋、森山）

◇10月29日（日）
岩手県営体育館

大崎電気 35 ｛19―16、16―15｝ 31 シャトレーゼ

〔戦評〕前半立ち上がりから両チームとも激しい点の奪い合いとなった。ほぼ一進一退の展開を見せたが、得点力に勝る大崎が3点をリードして前半を終了した。

後半に入って、シャトレーゼも海道、小松らのがんばりでほぼ互角の展開を見せたが、前半のリードを保った大崎が逃げ切った。

得	〔大崎〕		〔シャト〕	得
1	佐々木	GK	丸山	0
0	宗片	GK	工藤	0
1	藤井	FP	小松	8
4	前川	FP	海道	4
3	梅原	FP	松沢	6
3	江口	FP	黒沼	0
1	鷲宮	FP	小林	0
1	野田	FP	小野寺	2
10	金	FP	江原	1
2	福井	FP	山岸	8
9	尹	FP	小友	1
0	田中	FP	成田	1
35	(1)	PT	(4)	31

（審・増田、田村）

◇11月4日（土）
四日市市体育館

ジャスコ 15 ｛9―7、6―5｝ 12 シャトレーゼ

〔戦評〕前半20分過ぎまで6―5とシャトレーゼが1点リードしていたが、ジャスコが3連続得点をして逆転、堅いディフェンスとGK小深田の好守により9―7と2

点をリードして前半を終了した。
後半、シャトレーゼも小松のロングなどで1点差まで追い上げたが、ジャスコは川井の速攻により逃げ切った。

〔シャト〕	得		〔ジャス〕	得
丸山	0	GK	小深田	0
工藤	0	GK	小林	0
小松	6	FP	佐々木	5
島崎	0	FP	石田	0
海道	1	FP	常石	1
松沢	0	FP	川井	2
小林	1	FP	池田	3
小野寺	1	FP	東出	0
山岸	3	FP	寿系	0
小友	0	FP	稲田	1
野沢	0	FP	今井	0
小俣	0	FP	王	3
12	(1)	PT	(1)	15

（審・小山、飼沼）


大崎のゴールを守る宗片

◇11月4日（土）
岐阜県民体育館

日本ビクター 23（11―10／12―13）23 大和銀行

〔戦評〕立ち上がり、いきなり山之内のロングで先行したビクターは速攻を連発し、9分まで7―2とリードする。しかし、セット力に勝る大和は落ち着きを取り戻し、丸田のロング、上村のポスト、カットインなどで追い上げ、前半を11―10とビクターの1点リードで終了。

後半に入ると、両チームとも激しい攻防を見せ、22分まで6度同点となる。ここから大和は丸田のロング、藤本のカットインで2点差とし逃げ切るかと思われたが、ビクターは28分渡辺のポストで1点差、残り2秒、相手チャージから得たボールを山之内が速攻からロングを打ち込み、劇的な引き分けに持ち込む。

〔大和〕	得		〔日ビ〕	得
増見	0	GK	小口	0
簗田	0	GK	山田	0
丸田	5	FP	長田	8
鈴木	5	FP	枝川	1
袰川	2	FP	下條	4
上村	4	FP	太田	3
小池	3	FP	工藤	1
藤本	2	FP	永岡	0
渡辺	1	FP	山之内	4
木瀬	1	FP	中村	2
松田	0	FP	浜口	0
瀬川	0	FP	小松	0
23	(3)	PT	(4)	23

（審・能波、井上）

◇11月5日（日）
愛知・枇杷島体育館

大崎電気 34（16―9／18―14）23 立石電機山鹿

〔戦評〕リーグ完全優勝を狙う大崎は、前半立ち上がりより全員気合いが入り、尹のロング、金のコントロールパスによるポスト、サイドシュートで得点を重ねた。対する立石は、野嶋のロングで対抗するが、大崎の高いディフェンスに阻まれ、16―9と大きくリードを奪われて前半を折り返す。

後半に入っても、大崎は高さを利用したダイナミックな攻撃で得点し、リードを広げる。立石も野嶋のロングなどで追いかけたが、前半の点差を詰めるまでには至らなかった。

これで大崎は10戦全勝で完全優勝を果たした。

〔立石〕	得		〔大崎〕	得
前川	0	GK	佐々木	0
川島	0	GK	宗片	0
横田	0	FP	藤井	4
山内	1	FP	前川	5
中山	1	FP	梅原	4
武津	2	FP	江口	2
野嶋	6	FP	鷲宮	0
橋本	1	FP	野田	1
斉藤	3	FP	金	9
石村	1	FP	福井	1
古田	0	FP	尹	8
比嘉	8	FP	田中	0
23	(3)	PT	(5)	34

（審・板倉、岩本）

〔最終順位〕

①大崎電気（10勝）
②大和銀行（6勝1分3敗）
③立石電機山鹿（5勝5敗）
④日本ビクター（4勝2分4敗）
⑤ジャスコ（3勝7敗）
⑥シャトレーゼ（1分9敗）
※3、4位は同点チーム間の得失点差による。

〈個人表彰〉

▼ベストプレーヤー賞
GK　小深田由紀子（ジャ）
FP　金　玉花（大崎）
　　尹　秉順（大崎）
　　丸田　紀子（大和）
　　長田　友子（ビクター）
　　比嘉　晴美（立石）
　　袰川亜由美（大和）

▼最優秀監督賞
李　相玉（大崎）

▼最高殊勲選手賞
金　玉花（大崎）

▼得点王
金　玉花（大崎）　96点

▼フィールドゴール賞
金　玉花（大崎）　93点

▼最高得点率賞
梅原　直美（大崎）　0・695

▼ペナルティー得点賞
長田　友子（ビクター）　33点

▼ペナルティー獲得賞
石田真由美（ジャ）　14回

▼新人賞
小松　晃子（シャト）

第5回(女子第2回)アジア選手権大会報告

男子、見事世界選手権出場権を獲得

第5回（女子第2回）アジア選手権大会は、8月20日から29日まで中国・北京で開催された。

男子は、宿敵・韓国には惜しくも敗れたが、クウェートには快勝、第2位となって、見事世界選手権の出場権を獲得した。一方女子は、ライバル韓国、中国戦ともに大熱戦を演じたが、惜しくも3位に終った。

男子

▼予選リーグA組

クウェート 22（9－10、13－8）18 中国

クウェート 26（12－12、14－8）20 イラン

中国 32（15－12、17－7）19 イラン

〔順位〕①クウェート②中国③イラン

▼予選リーグB組

日本 33（16－7、17－13）20 台湾

得〔日本〕	氏名	〔対台湾〕
0	矢内	GK
0	橋本	GK
0	田口	FP
7	玉村	FP
6	宮下	FP
1	立木	FP
1	酒巻	FP
3	山村	FP
10	首藤	FP
0	斉藤	FP
4	高村	FP
1	中山	FP
33	(5)	PT

日本 32（20－8、12－7）15 サウジアラビア

サウジアラビア 28（17－12、11－13）25 台湾

〔順位〕①日本②サウジアラビア③台湾

▼予選リーグC組

韓国 32（17－9、15－10）19 カタール

韓国 47（24－4、23－4）8 香港

カタール 30（18－5、12－3）8 香港

〔順位〕①韓国②カタール③香港

▼決勝リーグ進出決定戦

得〔日本〕	氏名	〔対サウジ〕
0	橋本	GK
0	高橋	GK
2	田口	FP
11	玉村	FP
2	宮下	FP
3	立木	FP
1	酒巻	FP
2	河原	FP
6	山村	FP
4	首藤	FP
0	斉藤	FP
1	高村	FP
32		

韓国 37（17－18、20－12）30 中国

日本 34（19－8、15－7）15 カタール

得〔日本〕	氏名	〔対カタール〕
0	橋本	GK
0	高橋	GK
0	田口	FP
9	玉村	FP
2	宮下	FP
4	立木	FP
1	酒巻	FP
3	河原	FP
8	山村	FP
2	首藤	FP
2	高村	FP
3	中山	FP
34		

クウェート 22（11－11、11－10）21 サウジアラビア

▼7～9位決定リーグ

台湾 32（17－14、15－14）28 イラン

台湾 44（22－7、22－9）16 香港

イラン 37（17－5、20－8）13 香港

〔順位〕⑦台湾⑧イラン⑨香港

▼4～6位決定リーグ

中国 28（15－10、13－4）14 カタール

中国 30（16－9、14－8）17 サウジアラビア

サウジアラビア 22（14－13、8－9）22 カタール

〔順位〕④中国⑤サウジアラビア⑥カタール

▼決勝リーグ

韓国 24（15－10、9－9）19 日本

得〔日本〕	氏名	〔対韓国〕
0	矢内	GK
0	橋本	GK
2	田口	FP
4	玉村	FP
1	宮下	FP
1	立木	FP
1	酒巻	FP
0	河原	FP
3	山村	FP
6	首藤	FP
0	斉藤	FP
1	高村	FP
19		

韓国 27（10－13、17－13）26 クウェート

日本 26（15－9、11－4）13 クウェート

得〔日本〕	氏名	〔対クウェート〕
0	矢内	GK
0	橋本	GK
2	田口	FP
4	玉村	FP
1	宮下	FP
2	立木	FP
0	酒巻	FP
0	河原	FP
9	山村	FP
4	首藤	FP
1	高村	FP
3	中山	FP
26		

〔順位〕①韓国②日本③クウェート

女子

▼リーグ戦

韓国 51（26－4、25－4）8 香港

中国 25 (15−10, 10−11) 21 日本

得〔日本〕		〔対中国〕
0	小深田	GK
0	小　口	GK
1	尾　苗	FP
6	丸　田	FP
6	海　道	FP
0	佐　藤	FP
0	道　上	FP
2	上　村	FP
4	袰　川	FP
0	市　来	FP
1	松　田	FP
1	比　嘉	FP
21	(6)	PT

韓国 32 (19−6, 13−8) 14 台湾

中国 29 (18−5, 11−11) 16 台湾

日本 49 (24−3, 25−3) 6 香港

得〔日本〕		〔対香港〕
0	小　口	GK
0	村　山	GK
3	尾　苗	FP
5	梅　原	FP
4	丸　田	FP
1	道　上	FP
4	上　村	FP
5	袰　川	FP
6	小　池	FP
2	林	FP
8	松　田	FP
11	比　嘉	FP
49	(5)	PT

日本 26 (16−7, 10−8) 15 台湾

得〔日本〕		〔対台湾〕
0	小深田	GK
0	村　山	GK
0	尾　苗	FP
5	梅　原	FP
4	丸　田	FP
0	海　道	FP
0	道　上	FP
0	上　村	FP
2	袰　川	FP
8	小　池	FP
1	市　来	FP
6	比　嘉	FP
26	(6)	PT

中国 47 (21−3, 26−4) 7 香港

韓国 33 (12−12, 21−14) 26 日本

得〔日本〕		〔対韓国〕
0	小深田	GK
0	小　口	GK
0	尾　苗	FP
2	梅　原	FP
5	丸　田	FP
1	海　道	FP
2	道　上	FP
2	上　村	FP
0	袰　川	FP
1	小　池	FP
5	松　田	FP
8	比　嘉	FP
26	(0)	PT

台湾 43 (24−6, 19−3) 9 香港

韓国 29 (14−14, 15−10) 24 中国

〔順位〕①韓国②中国③日本④台湾⑤香港

アジア選手権大会に参加して　団長・安藤純光

大会での技術的な、戦術的な分析評価については、強化スタッフの報告に譲ることとして、以下日程を追って概略を報告する。

8月18日9時50分成田発北京行ANA905便は、男女ナショナルチームを乗せて一路北京へと飛び立った。6月4日の天安門事件以来大会の開催および選手団の派遣について不安はあったが、中国ハンドボール協会からの『北京は平生を取り戻し大会は予定のとおり開催される』という情報を頼りにしての出発であった。予定の13時50分北京空港に到着した。中国協会の花束での出迎えを受けてバスに乗り宿舎「西苑飯店」に到着した。このバス（男女チームにそれぞれ1台）は、大会を終って北京を去るときまで専用であり運転手も専属であった。

参加選手団（中国を除く）はすべてこの西苑飯店に宿泊することになっていた。日本選手団は、12階エレベーターを降りて左側に女子右側に男子が滞在することになった。北京の空は青く晴れわたり、ソウル・オリンピックを思わせる空と気候であった。

各チームには90分ずつのトレーニングの時間が割り当てられ、それぞれ開幕前の調整に努めていた。19日16：00より本部宿舎である「民族飯店」において代表者会議が開催された。この会議にはAHFから1st Vice President Mohammed Ali Abul 氏をはじめ Secretary General Syad Abul Hasan 氏、夏　朗氏、金　宗河氏などの役員のほかにIHFから 1st Vice President Dr. Vladimir Krivcov 氏をはじめ Secretary General Raymond Hahn 氏そして参加各国チームの代表が出席して開催された。

参加国は、男子9ヶ国（韓国、中国、日本、中国台北、香港、イラン、クウェート、サウジアラビア、カタール）、女子5ヶ国（韓国、中国、日本、中国台北、香港）であった。女子については、5チームの総当たりリーグによって競技を行ない順位を決めることになった。抽選の結果、日本は、中国、香港、中国台北、韓国の順で対戦することになった。

男子については、A、B、Cの3グループに分けて予選リーグを行ない、その後順位決定戦を行なうことになった。各グループには前回の1～3位までのチーム、4～6位までのチーム、そして7～9位までのチームを抽選によって分けた。その結果、Aグループ《日本・中国台北・サウジアラビア》、Bグループ《クウェート・中国・イラン》、Cグループ《韓国・カタール・香港》となった。

8月20日（日曜日）19：00からの開会式に続いて行なわれるオープニングゲームは中国がクウェートを選んで行なわれ、いよいよ競技が開始された。このゲームは、前半をクウェートが13―8とリードし、中国は後半10―9と追いあげたが18―22で敗れた。

さて、21日、わが新生男女ナショナルチームが公式戦初の第1戦を、女子は中国と、男子は中国台北と戦った。女子ナショナルチームにとっては越えなければならない2つの山の1つである。緒戦から山に突き当たらなければならないのは不運ではあったが、前半いくつかの得点のチャンスを逃しながらも、11―10とリードして後半に期待をつないだ。後半中国の反撃にあいミスもでて、残念ながら21―25で越えるべき山を越えることができなかった。男子は、中国台北と対戦前半は固さが目立ってミスも多く、得点が伸びなかったが17―13とリードして後半に入った。ようやくペースを取り戻し33―20で緒戦を飾った。IHF PRC President Erik Elias 氏が来会した。

22日女子はゲームなし。男子は対サウジアラビア戦前半12―7とリード32―15として快勝した。男子は予選リーグ2勝、Aグループ1位で順位決定戦に進出。

23日男子はゲームなし。女子は対香港戦ゲーム開始時より着々と得点を重ね、前半を25―3と大きく水をあけ49―6で大勝した。21日香港は韓国と戦って8―51、韓国戦を26日に控える日本としては期待のもてる結果であった。

24日休養日。参加選手団はバスを連ねてパトロールカーの先導で『万里の長城』『明13陵（定陵）』を見学した。

25日女子は第3戦対中国台北戦、前半は調子が出ず10―8で終わり、後半が懸念されたが、後半を15―6とリードし、25―14で勝ち通算2勝1敗とした。男子は、Cグループ2位のカタールとの対戦、ス

タートから着々と得点を重ね前半を15－7と大きくリードし、後半もさらに差を広げ34－15で楽勝し今大会の最大の山に向かって前進した。

26日男女ともに今大会最大の山である対韓国戦を戦った。女子は、すでに中国に敗れているので、この一戦に勝って巻き返しにかかりたいところ。しかし、意の如くならず前半に14－21とリードされ、後半12－12と善戦したが残念ながら26－33で敗れた。男子は、ミスの多いゲームとなったが、しかし前半を9－9と対で終わり後半に期待をつないだ。後半に入って韓国は、もちまえのスピーディーな攻撃で得点を重ね、日本は10－15とリードされ夢は破れた。男女ともに山を越えることができなかったが、ゲームの内容から見て近い将来に期待できるものであった。女子はこれで全ゲームを終了し2勝2敗『3位』の成績であった。

27日日本は男女ともにゲームなし。午後男子は、韓国対クウェート戦を観戦し、夜男女レフェリーも合流して会食した。

28日休養日。再びバスを連ねて『天安門と広場周辺』を見学。午後、中国協会から極東の参加国、日本・韓国・中国台北・香港の役員が招待され北京郊外の『頤和園』を見学、島にあるレストランで会食の後、夕闇迫る湖上に舟を浮かべて涼風に吹かれての一時は、価千金であった。

29日大会最終日。男子は、もう1つの山であるBグループ1位のクウェートと対戦した。勝って2位敗れれば、3位、是が非でも勝たなければならないゲームである。このゲームでの日本チームは最高のゲームをした。スタートからリードを奪い前半を11－4と大きく引き離して終わり、後半に入っても緩まず26－13のダブルスコアーで『2位』の座を確保した。終了後、感激して選手を前に〃やればできる。どのゲームでもできることはやれ!!〃と口を突いて出た。

午後の最終戦女子中国対韓国戦の後、閉会式が行なわれ、女子1位韓国・2位中国・3位日本。男子1位韓国・2位日本・3位クウェートがそれぞれ表彰を受けた。16：00より、全選手団・役員（500人を超えていたであろう）が参加して人民大会堂3階の大宴会場で着席してのサヨナラパーティーが開催され、本大会のすべてが終了した。

今大会のRefereeは各参加国からの1ペアー（韓国は2ペアー）とデンマーク・ユーゴからの各1ペアーが担当した。日本からは後藤　登氏・島田房二氏が参加して高い評価を得た。Elias氏は『全体的にアジアのRefereeの技術は上がっている。とくに後藤・島田は良い。私はデンマークの女子B選手権に招聘したいと考えている』とのことであった。両氏のますますの精進を期待したい。

ソウル・オリンピックが終わって、バルセロナを目指す新しいナショナルチームがスタートして初の公式試合参加であった。男女ともに予測した成績をあげて大会を終えることができたとはいえ、この成績ではバルセロナへの参加は不可能である。この大会を戦って得た貴重な資料を基に、短所を補い長所をさらに進展させる絶え間ない努力が必要である。

出発に先立って心配された『不安』については、滞在中何も感じることなく大会に参加することができたことはなによりであった。あとになったが、いろいろとご心配いただいた関係各位に厚くお礼を述べ報告を終わる。

選手団の感想文　男子

理事・市原則之

戒厳令下の北京市での男子第5回、女子第2回のアジア選手権大会兼世界選手権アジア予選会を、男子第2位、女子第3位の成績で終了し、それぞれ世界選手権AグループとBグループへの出場権を獲得した。

この成績の善し悪しはともかくとして、今般のアジア選手権出場には、本来の目的である勝利の為に全力投球するだけでなく、三つの大きな目標があった。まず一つは、当然のことながら当大会に優勝あるいは相当の成績を残して世界選手権Aグループへの出場権を獲得し、これによってアジアの主導権を再び日本に持ち帰ること。続いて二つ目は、一九九一年の開催地として立候補し、おそらく決定されるであろう広島市でのオリンピック出場権をかけたアジア選手権大会開催の為の視察、そして最後は世間の注目を浴びながら出場した戒厳令下の北京遠征の無事終了の三点であった。

特に三番目においては5月以降の北京での世情と、その後日本人に対する〃血光決死団最高指揮部〃からの脅迫状などがマスコミを騒がすに至り、それぞれの選手所属先より不安の声があがり、日本協会としても相当神経過敏になり慎重な対応を迫られた。そこで各方面から情報収集を図りながら安全を確認し、引卒役員も専務理事を筆頭に強化部長並びに男女の強化委員長というかつてない責任体制を取るに至った。こうした経緯があるだけに、当遠征が無事終了し成田におり立った時は、勝敗を度外視して初期の目的を果たしたような強化部長にあるまじき満足感が全身をおおった。また、広島のアジア選手権大会誘地決定は、日本協会の快挙であるが、この日本ハンドボール界が過去に経験のない大イベントを成功させるには相当の覚悟を必要とする。勿論のこと、広島誘地の目的はオリンピックアジア予選を勝ち抜く為の手段として選ばれたものであるが、この大会を成功することによりハンドボール競技がマイナーから脱却し、大きな力を貯えることになるであろう。したがって、ハンドボール界百年の計の為にも、全員が一丸となって取り組み、是が非でも成功させ将来への自信を植え付けておかなければならない。

最後に、一番重要な成績の面は、強化部の思惑が多少外れた感があるが、その内容たるは、韓国をどんどん追い詰めて今一歩まで肉迫し、よく戦ってくれたと一応の評価を与えたい。しかし、目標はあくまでバルセロナ・オリンピック出場であり、戦いに満足することなく最終勝利の為に一層の精進を重ねて行かなければならない。特に急務とされる若手の育成を図りながら……。現場スタッフの一層の奮闘とナショナルチームを取り巻く関係各位の倍旧のご支援をお願いする次第である。

監督・津川　昭

今年2月に新生全日本チームを編成して約半年、オープン参加な

どによる新戦力の発見やる気のある人材の確保など色々と試行錯誤しながら強化に励んできたが、期間が短いということもあって、結局はほとんどがソウルのメンバーでこのアジア選手権を戦ってきた。結果的にはこのベテランの連中の活躍によって8年ぶりの世界選手権への出場権を手にすることができた。彼ら（ソウルメンバー）の試合ぶりを見ていると、ソウル当時よりもだいぶ余裕が出て落ち着いたプレーができるようになったように感じていたが、残念ながら韓国戦では必要以上に相手を意識してしまって、墓穴を掘った形となった。

後半10分13対10とリードしたところで、リードしているはずの日本が勝ちを意識したのか動きが悪くなり、イージーミスを連発してしまった。韓国は大型の若手選手を加え、スターティングの平均身長は187cmぐらいはあると思われる。しかしその分パス回しなどが遅く、また攻撃のきっかけが姜のフェイントだけとなり、全体的にはレベルダウンしていた。

一方クウェートは、ソウル予選のままのメンバーで、立ち上がりを制した日本に対し、一気に集中力を失ってしまったようだ。この辺にチームの老朽化を感じた。

直接対戦していない中国だが、緒戦のクウェート戦はかえって地元の為緊張したのか出来が悪く、試合をこなすごとにチーム力が向上していった感じだ。

さて肝腎なバルセロナに向かってだが、今の韓国がこの2年間でどれくらいの強化ができるかというのが、ひとつのポイントになると思われる。素材的には素晴らしい若手を、ソウル・オリンピック前までのような思い切った強化ができるかということである。一方我日本チームの中心選手は、運動選手としては高齢であり、残された2年間でどれだけ次に続く選手を育てられるかが大きなポイントだ。もう今から素材発掘などしていられない。そういった意味では本当に苦しい台所事情だ。今の韓国にもう一度すぐ試合をするとかなりの確率で勝つチャンスがあるだろう。そういった意味では勝負はまったくこれからだということだ。来年9月の北京アジア大会では、何人かの若いスターが活躍してくれるよう頑張りたい。

高村誠一

私自身の中では、ソウル五輪が私のナショナル選手としてのひとつの区切りでありましたが、今回ナショナル選手のケガなどにより、全日本復帰の要請がありました。世界選手権Aの予選を兼ねた今大会の重要性も理解していましたし、私のような者でも全日本チームにとって少しでも役に立つことがあればと思い、大会に参加させていただきました。結果は、満足はできませんが、最低目標である世界選手権の切符だけは手に入れることができ、内心ホッとしています。しかし、ソウル五輪が終ってから若手への切り替えを行ない、戦力的にもかなりダウンした韓国に負けたことは非常に残念でなりません。レギュラーのほとんどがソウル五輪の時のメンバーで構成される日本は、現在の韓国はソウル五輪で銀メダルをとったチームではない、まったく新しいチームで、実力的には日本の方が上だ、と頭ではわかっていても、やはり〝韓国は強い〟という意識を捨て切れなかったのか、それとも逆に、弱い韓国なんだからこんなチームに負けてはいけない、という気持ちから肩に力が入ってしまったのか。いずれにしても以前から課題とされてきた〝精神面の弱さ〟が出た格好となり、私も含め選手一人ひとりは悔しい気持ちでいっぱいだと思います。

幸い世界選手権の切符は手に入れましたので、むこうで韓国と戦うチャンスがあるかもしれません。その時には精神面の弱さを克服し、技術的には、ディフェンスにプレッシャーをかけられた時の攻撃方法を確立することにより、必ず韓国に勝たなければならないと思います。

今回は、再びナショナル選手として国際大会に出場する機会を与えていただき、本当にありがとうございました。

首藤信一

今大会を終えて、世界選手権に向けて自分の課題と反省を考えて見るとやはり攻撃の悪さがあげられると思います。

第一に、シュートを打つ時に真直ぐに狙いすぎ、相手に合わされやすかったので、ボールに合わせて笠形に動くようにして、ジャブを多くして、確率を考え、常にゴールを狙える状態をつくるようにしなければならないと思います。

第二に、速攻でDFからOFに変わる時の位置取りと攻めるか止めるか、はっきりしていなかったことが悪かったと思います。

それに対しては、どっちにしてもハーフまではまずボールを運び、そこで判断する形に持って行くようにして、スピードも常に100％だけでなく、50～70％ぐらいでランパスでバランス良くつないで行く形を取って行きたいと思います。

第三に、ボール回しでサイドにリズム良く入らない時に攻めあぐんでしまうので、45度同士のパスやポスト、サイドの人にタイミング良く出て来てもらうようにして、リズムを立て直していかなければならないと思いますし、隣りの人との簡単なコンビでボールをつないでDFを崩してゆきたいと思います。

最後に、チームの課題でもある一試合を通して闘争心を持ちながら平常心でできるよう、ボールに集中して、合宿の一つ一つの練習をして、その中でチームの状態を常に考え、どういうプレーをすれば良いか判断できるようにしたいです。

田口　隆

私は今回、8月20日から中国の北京で開催された「第5回アジアハンドボール選手権兼世界選手権アジア予選」に参加しました。

日本は、予選で台湾とサウジアラビアの両国と対戦し、いずれも大差で勝利を得ることができました。

予選グループを1位で通過し、いよいよ順位決定リーグに入り、まずカタールと対戦し、勝利を得、次に宿敵韓国と対戦しました。この一戦については、後半の始めまでは日本がリードしたものの、後半中ばにペースを崩し、結局5点差で敗れてしまいました。

韓国に敗れた為、優勝はなくなったものの、最終戦のクウェート戦にすべての面でクウェートを上回り、大差で勝ち、世界選手権の出場権を獲得しました。

来年の世界選手権では、ソウル・オリンピックで果たせなかっ

たことにもう一度チャレンジしてみたいと思っています。また、この次韓国と対戦するまでに力を蓄え、アジアNo.1の座を奪い返したいと思っています。

宮下和広

今大会の私たちの目標は、世界Aの切符を獲得することと、宿敵である韓国を倒しセンターポールに日の丸を掲げることであった。

予選リーグでは、台湾、サウジアラビアを下し、チームの状態も徐々に良くなり、決勝リーグに入った。

そして、カタールに圧勝し、韓国戦に臨んだが、しかし、結果は惜くも敗れ、クウェートと一騎打ちとなった。

ゲームが始まり、スタートから日本ペースで相手にペースを取られることもなく快勝し、なんとか目標であった世界Aの切符を獲得することができた。

今大会は、韓国には勝てなかったものの、チームとしては目標を達成できたと思うが、自分の貢献度としてはいまーつで、シュートを決めるだけではなく、アシスト、守りなどでもっと貢献できたのではないかと反省している。

今後は、生きるプレーばかりではなく、死ぬプレーでもっとチームに貢献できるようにトレーニングしていきたいと思うし、それが自分の課題だと思う。

酒巻清治

今回のアジア選手権は、新生全日本にとって初めてのビックタイトルのかかった大会でありました。

前回の世界選手権の予選では、韓国に敗れ、中国とは引き分け、非常に悔やしい思いをしました。

ソウル・オリンピック出場組も世界選手権Aグループは初めてのことなので、この機会にぜひとも出場権を獲得し、来年2月チェコで開かれる本大会に出場しようと意気盛んに北京入りしました。

空港から北京市内に移動するバスの中から見る光景は全く平和な、あの6月の事件が嘘のように平静を取り戻していました。選手団はホテルから外出することは禁止されましたが、当初心配された食事は問題なく、比較的すんなりと大会に入ることができました。

予選リーグは、台湾、サウジアラビア、日本の3チームで、2戦とも問題なく退けることができましたが、台湾は選手の年齢が非常に若く、ジュニアチームに近い状態で、今後しっかりした強化がされれば、日本にとってあなどれないチームになると思われました。

決勝リーグの対戦相手は、カタール、韓国、クウェートの順で、カタール戦は問題なく退けたものの、今大会の目標でもあり、最大のヤマ場である韓国戦、ソウル・オリンピック銀メダリストが6人ほど残ったものの、オリンピックの時の迫力はなく、勝算十分ありと選手全員気合十分で試合に臨みました。

前半は、攻撃のペースがつかめないにもかかわらず、ディフェンスの踏んばりで9対9で折り返しました。後半に入り、日本のペースで試合を運び、一時3点リードまでなったものの、その後大事になり過ぎたのか、足が止まり、プレーが消極的になり、せっかくのリードを保てず、自分たちのミスで自滅する形になってしまいました。私自身、自分のミスからペースを乱し、チームに大変申し訳ないことをしました。

最終戦のクウェート戦は、全員の力が結集し、文句なしのゲーム運びで、一つの目標であった世界選手権の出場権は獲得したものの帰国した現在でも、私の気持ちの中に韓国戦の敗戦は残っており、全日本チームに対して大変申し訳なく思っています。

しかし、自分の失敗は自分で取り返さなければなりません。次回機会があれば必ず借りを返したいと思います。

山村敏之

私にとって初めてのアジア選手権、しかし韓国に敗れて2位という成績。その韓国戦後考えさせられることがあった。それは、韓国チームは、ソウル・オリンピックの時のメンバーは勿論のこと、新しい選手、若い選手でさえ一人ひとりが自信に満ちていたように思う。その新しい選手、若い選手の自信は、ソウル・オリンピックで韓国チームはあれだけ素晴らしい戦いを行ない、それだけの成績を残した。「オレはその韓国ナショナルチームのメンバーなんだ」という誇りからではなかったかと思う。

やはり「勝」か「負」ということは、その時のメンバーだけでなく、メンバーが変わった時にでも「勝負」に影響するということを常に頭に入れ、これから戦っていきたい。

矢内　浩

新生全日本チームとなってから初めての公式戦となったアジア選手権で、優勝することはできなかったが、世界選手権の出場権だけは勝ちとることができた。

5試合を振り返ると、チームまたは個々の選手の中で、良い面、悪い面が多く出た大会でもあった。

良い面を振り返ると、若い選手が試合に出ることにより、精神面や技術面でも自信をつけたという点が今回明るい材料だと思う。悪い面を振り返ると、ソウル・オリンピックの時でも、反省に出た精神面の弱さが、今回の韓国戦に多く出たと思う。

今の日本と韓国とでは、日本の方が〝力〟はあると思うが、試合でその力を出し切れていない。練習でできるプレーが試合になるとできないことが今後の問題点になると思う。

私の考えでは、個々の選手がもっと自信を持って試合をすることができれば、今のアジアでは、一番になれると思う。韓国が今回勝ったのも、オリンピックで銀メダルをとったという自信があったと思う。

橋本行弘

今大会に参加し、結果は準優勝と韓国には敗れたものの目標のひとつだった世界選手権への切符は手に入れたことで、誰もがホッとひと安心しているのではないでしょうか。

たしかに、この次の世界選手権という全日本がこれから伸びて行く為のステップはできたかもしれませんが、本当はどうなんでしょう。韓国や中国は20歳前後の若手をどんどん起用し、2年後のオリンピック予選に向け着実に一歩前進しているのではないでしょうか。

それに引き替え、日本のゲームに出る選手はソウルメンバーがほとんどで、新しい血がチームの内

にはほとんど入ってはいません。
悪く言えば、ロス五輪が終り、ソウル五輪を経て5年間でやっとアジア2位の力がついたにすぎません。このままバルセロナの予選を迎えたのではダメだということは、今大会に参加した誰もが感じたのではないでしょうか。

玉村さん酒巻さんが西独に留学し、ユーゴでは1ヶ月間もの合宿もし、数多くの海外遠征、国際試合を経験し、1・2・3DFやアクックDFなどいろいろな工夫もし、いろいろな壁を乗り越えてきたソウルメンバーの力を借りても結果はアジアで2位でしかないのです。

卑下したような文章になりましたが、バルセロナの予選まで後2年です。私自身このままの殻の中にいてはバルセロナも夢で終ってしまいます。すぐに答えが出る訳はありませんし、必殺の攻撃方法やディフェンスシフトがある訳ではないですが、一日24時間、からだは休める時はあっても頭の中は常にハンドボールのことを考えるような気持ちで、ハンドボールに没頭する心構えが必要なことは確かです。まだまだ険しい道ですが、〝頑張ろうで始まり、また頑張ろうで終る〟という低レベルの練習内容を早く越えられるよう、毎日を課題をもって取り組むことが、私にとってのこれからの課題だと思いました。

斉藤慎太郎

今大会を通じて感じたことは、結果は準優勝という成績であったが、我々日本チームは優勝した韓国よりもある部分では上回っている面もかなり多く見られたと思う。韓国戦ではみんな力みすぎたところがあったようで、思うように力が出せなかったのだろうが、最終戦のクウェート戦でのディフェンスなどは素晴らしかったと思う。組み合わせ上、中国とあたらなかったのは残念だが、アジアのトップレベルのチームと対戦してみて、現在の力は日本と韓国が1、2位の力を持っていると思う。しかし反面、他の国は若手層に力のある選手がいるという点では今の日本の若手のレベルが低いのではと思えるところがある。その為、我々若手が少しでも早くソウル組と互角、それ以上にわたりあえるよう力をつけていかなければならないと思った。

中山　剛

このアジア選手権大会で優勝はできなかったのですが、2位になれてとてもうれしく思っています。自分は、まだナショナルのメンバーに選ばれてから半年にもならないんですが、このような大きな大会へ参加させていただいて、本当にうれしいことばかりです。たしかに、合宿などではいつも苦しい思いをしていますが、このような大会でみなさんと一緒にプレーができて、まして、試合にも出していただけました。なんとか得点をあげることもできたのでそれは良かったと思っています。しかし、自分のプレーは他の人と比べればまだまだ大きな差があります。ですから、もっともっとプレーを勉強して、すこしでも他の選手に追いつけるように努力していきたいと思っています。

来年の2月からの世界選手権でも、しっかりやりたいと思っています。

甲斐章義

第5回アジア選手権で全日本は世界選手権のキップはアジア1位として得たくこの大会に臨んだ。と同時に、今までの借りを韓国に返したかった。これはスタッフ、および我々選手の念願でもあった。

22日に日本はゲームが始まり、26日に韓国、29日にクウェートと予想されていた。毎試合が緊張の連続であったが、26日には個人もチームもしだいに調子が上がり、今大会での一つの大きな課題、立ち上がりを大切にするということも解決できた。しかし、最後のシュートが少しイージーであったことだけを除けば十分韓国に勝てる条件はととのったように思えた。

そして迎えた韓国戦。スタッフからあれほど言われていた平常心が欠けていたと思う。そのためかいつもとどこか動きが違っていたそれでも後半3点韓国を引き離したが、速攻の位置どりやフォーメーションを仕かけた後の展開がうまく行かず、それがディフェンスやキーパーへも影響し、その結果オフェンスやディフェンスでもリズムが取れなくなり、終ってみれば5点差で負けていたという試合であった。

しかし、この韓国戦は日本につめ大きな最後の課題を与えてくれた試合だったように思う。その新しい課題はたくさんあるが、その中でも速攻の展開、フォーメーションの後の展開、この二つを解決した時、最終戦で戦ったクウェート戦並の試合展開が韓国戦でもできると思う。

木村信弥

今回初めて全日本チームの一員としての海外での試合となったわけですが、この試合は来年チェコで行なわれる世界選手権の予選も兼ねており、韓国の他に1チームを選ぶ大事な試合であった。

自分自身まだまだ力不足のため、今回試合に出ることができなかったが、練習やアップなどでムードを盛り上げ、ベストコンディショ

ンで試合に臨めるように心掛けた。

韓国戦は惜しくも敗れてしまったが、気持ちを入れ替えて最終戦に備えた。

クウェート戦は、勝った方が世界選手権の出場権を得ることができる試合であった。もちろん選手全員勝つつもりであったし、スタッフもそういう気持ちであったと思う。結果は、26対13と快勝であり、タイムアップの瞬間は、思わずガッツポーズが出てしまった。試合後のミーティングで、津川監督から「みんなよく頑張った。ご苦労さん」と言われた時は本当にうれしかった。

今後は、より一層練習に励み、世界選手権ではぜひとも6位入賞を果たしたい。

選手団の感想文

女子

コーチ・梶岡俊介

8月20日から29日まで北京市の月壇体育館と石景山体育館にて、男子9チーム、女子5チームで行なわれた。今大会は一九九〇年に韓国で行なわれる世界選手権Aの予選を兼ねており、韓国はすでに出場権を得ている為、対中国戦に的を絞り試合に臨んだ。

8月21日の第1戦が中国との試合となったが、チーム結成以来初の公式戦とあって、お互いミスの多い試合となったが、ロング陣の活躍と速攻をペナルティに結びつけて前半は1点リードして終った。後半10分まではロング陣が頑張り同点であったが、ロング陣に頼りすぎ攻撃が単調になって残り20分間に5点しか取れず、結果的に4点差で負けてしまった。

最終の韓国戦では、前半開始10で5点差をつけられ、そのまま逃げ切られてしまった。後半10分過ぎと20分過ぎに5点差を縮めるチャンスがあったが、ミスにより自滅してしまった。中国チームも韓国チームも若返っており、ミスが連続する場面があったが、日本チームもぺじようにミスをしたり、相手のミスにつけこむような力強さに欠けた。

今大会ではロング陣の活躍が目立ったが、攻撃が単調になりがちで、対韓国戦の後半のプレーがもっと早く出ていたら良いゲームになっていたと思う。今後はポストやサイドのコンビ、またディフェンスと速攻を鍛えなおし、本年11月末からの世界B選手権目指して頑張ります。

最後になりましたが、全日本チームに選手を送り出して戴いた各チーム、またご声援戴いた皆様方に紙面を借りまして厚くお礼申し上げます。

道上圭子

今回のアジア大会は、世界選手権の切符を得るため、中国に勝つことを目標にしてきたのですが、初戦で敗れてしまい2勝1敗で韓国戦を迎えることになりました。

私たちは、7月に韓国遠征を行ない、その中でもゲームには勝てなかったものの、韓国の得意とするスピードプレー、フェイントに対する守り、攻撃で通用したプレーを思いだし、ミーティングを重ねゲームに臨みました。

前半が終って21—14、出だしが悪くミスが続き連続失点でペースがつかめなかった。得点を考えると前半で14得点は良い方だと思うけれどとにかく失点が多すぎること。後半はディフェンスを固めて集中するように残りの30分臨みました。後半に入りディフェンスにがんばりがあり、日本のペースでゲーム運びができ連続得点などで一時は4点差まで詰め寄ることができた。やはり前半の大差がゲームの負けにつながってしまったのだけれど、今まで韓国遠征も重ね韓国チームとはすでに何回も試合をしているけれど、今回のように追い越すことはできなかったものの、少しでも近づき苦しめることができたということは、これからの私たちにとって追いつき、追い越せるチャンスがまだまだあると確信しました。このゲームも負けたけれど、負けた気がしないというのもそんな気持ちがあるからだと思います。韓国と試合をする機会は、これからまたありますが、追いつき追い越せるよう、がんばりたいと思います。

小口明子

今回の韓国戦は、初戦の中国で自分たちの力を十分に出しきれないまま敗れてしまった為最終の韓国戦で、自分たちのプレーがどこまで通用するか、またどこまで頑張れるかを目標にし、試合に臨みました。

前半では、ロングシュートに対しての韓国のディフェンスが良く、なかなか打つチャンスがありませんでしたが、ポストの攻撃などで点を得て行きました。しかし、相手の準速攻などが止められず、徐々に点が離れて行き、結局前半は14対21の7点差で折り返しました。ハーフタイムで肝心な時にミスをしている為点差が開いてしまいました。もっとミスを減らせば行ける……と指示がありました。誰もがもっとできるはずだと感じたと思います。

後半では、我がチームのディフェンスが良く、韓国の攻撃が思うように行かなくなりました。我がチームは、完全に守って一本とい

うパターンになり、どんどん点差は縮まり、3点差まで詰め寄ることができました。しかし、ミスがちょっとした所に出てしまい、3点以上の差を縮めることはできませんでした。結局後半は12対12と好ゲームでしたが、26対33で試合は終了しました。

自分はベンチに座ってはいるものの、コートに入っているかのように、1点1点、点差が縮まって行くたびに感激し、シュートを決めて帰って来る人のうれしそうな笑顔を、今でもハッキリ覚えています。3点差まで縮まった時には、本当に勝てると思ったほどです。

今回の試合では、みんなが韓国にかなり近づいたと思ったことと思います。また、もっと自分たちが頑張れば、追い越すのも夢ではないと思います。

海道元子

私たち、全日本チームは、男子が第5回、女子が第2回のアジア選手権に出場し、韓国戦が最終試合の26日に行なわれました。

大会が始まって初戦に中国との試合があり、惜しくも負けてしまい出端を砕かれたものの、2戦、3戦と連勝し2勝1敗で韓国との試合に臨みました。

全日本合宿で韓国遠征した時は、フェイントでの一対一、ロング、サイドシュートとあらゆる面から

の攻撃に守り切れなかったが、遠征が終りになるにつれて良くなっていったことを忘れずに、勝てるという思いで対戦しました。

韓国の特徴としては、タイミングのいいフェイント（柔軟性）確率の高いシュート力に、足の早さといい各選手が自分の役割を十二分に果たす面は、同じアジア人でも日本人より優れていると思う。

試合の立ち上がりからいつもとは違った雰囲気のゲーム運びだったものの、中盤からミスが出てそれを韓国の得点に結びつけられて、前半は14得点と良いものの、21失点で終了。

後半はうって変わりDFがとても良く、韓国の攻撃が前半とは全く違って攻め切れなかったり攻めてもGKの好守で得点にならず、後半だけを見れば攻守共、日本の方が押していた。

前半から後半のようなDFをしていたならと後悔がありますが、次に戦う時は1点でも点差を縮めるようチャレンジしていきたいと思います。

尾苗裕美

今回の遠征の最大目標は打倒中国ということであったが、私は香港戦について書こうと思う。

1戦目の対中国との試合に比べたらとても楽な試合展開であった。私個人としてはディフェンス専門という形でこの大会に臨み、この香港との試合でもディフェンス中心の試合になった。

香港チームの攻めは特にスピードがある訳でもなく、1対1の攻撃に対しても自分たちのフットワークだけで、十分に守ることができた。確かにそれだけで守れていたし、相手のイージーミス（オーバーステップ、ダブルドリブルなど）からの速攻だけでほとんど得点することもできていた。しかし、欲を言えば相手の攻撃の特徴、攻撃の流れを読みインターセプトも狙えたのではないかと思う。相手のペースが遅いこともあって、ディフェンスとしても、なかなか自分たちの守りというのが徹底できなかった部分もあったので、その部分をもう少し勉強したいと思う。

比嘉晴美

今大会の第2戦目は香港。1戦目で中国に負け、後の試合はだらっとなりそうな雰囲気があった。

香港のデータとしては、韓国と試合をしてるのを少し覗いて、あまり強くないなぁという印象をもったぐらい。ミーティングでは、自分たちのプレーをしろという指示だけで、誰がどのようなシュートを打つのか、どのようなフェイントをかけて、どんなコンビを使ってくるのか、などまったくといっていいほど知らない状態で試合をした。

前半、速攻や、ロングの個人プレーで調子よく得点できたが、そのため攻撃が単調になったり、相手のゆっくりなペースにいらいらしてカットをしそこねてシュートをいかれるなどのようなミスが出だし、自分たちのペースがくずれそうになったが、キャプテンの指示やベンチなどの声で持ち直した。

ハーフタイムで、監督、コーチ、井先生より「単調に打たずにコンビプレーを使っていくように」と指示があり、後半はコンビを使っての試合運びで、サイドあり、ポスト、ロングあり、速攻とバラエティに試合をすることができ快勝した。

この試合でよかったことは、相手チームのペースにはまらず、自分たちの力が出せたことだと思う。

松田史佳

49—6と圧勝した試合で、私は香港に対する何か寂しいものを感じた。ゲーム内容は速攻、速攻の連発で、確かに日本は香港より力もスピードも遙かに上回っていた。

一国の代表選手の集まりとは思えないプレーであり、その国のレベルがどれくらいのものであるかがわかる。

今の全日本女子は成績が思わしくない。あらゆるゲームにいくらおしい試合をしても負ければ何もならない。1点差であろうと、勝ち星をあげることが、今の私たちに必要である。

香港も選手たちなりに一生懸命だったと思うが、勝とうとする意気込み、闘志が感じられなかった。

ナショナル選手は、技術もさることながら、精神的な強さが要求されると思う。

自分が今、どのような立場におかれているのか。自信と誇りをもって、国際戦に臨みたいと思う。

日本のハンドボールファンに、寂しい思いをさせないためにも、唯一、できるのはコートの中にいる選手だけであり、その中の自分であり、与えられたチャンスを大切にしていこうと思う。

国際試合に参加することだけを目標とするのではなく、「勝つ」ことに集中していかなければならないと思いました。

丸田紀子

今大会で中国に勝つことを目標に何度かの合宿を経て、中国に乗り込みました。

同じくらいのチーム力だったと思うし、勝てた試合なだけに、本当に悔やまれてなりません。敗因は得点の取り方が片寄っていたことや、守りに粘りが足りなかったこと、お互いにミスの多い中、相手のミスにつけこむ得点が取れなかったことなどがあります。

中国は一線で守り、しかもラインにべったりはりついていたので、自分はとにかくロングを打ち込んでいこう、他のプレーは後でいい、スキがあれば打ってやれと思っていました。2戦、3戦と日がすぎるごとにコンビプレーができるようになったので、最初からそういったプレーが使えていたらと思うし、それだけの心にゆとりが足りなかったということだと思います。

攻撃、守り、精神面、どれをとっても、自分には課題ばかりです。次の世界選手権Bでは、悔いのないように、また、応援して下さっている方々の期待に応えられるよう16名再出発するつもりです。

佐藤泰子

アジア選手権予選の目標は、とにかく中国に勝つこととして、合宿を重ねてきました。私もディフェンス要員として必死にディフェンス練習をしてきました。そして試合当日、全員が緊張感の中でアップし、気合いの入れ方がいつもと違って、試合開始されました。スターティングメンバーとしてゲームに出ました。前半はよく守れたと思いました。そして同点でラスト残り時間がなくなった時、ペナルティーを取れた時は、非常にうれしかったのです。日頃のゲームであまり得点のできない私にはことさらです。そして、1点リードで後半戦に臨みましたが、中盤で相手に速攻で押し込まれ、またセットでも自分のディフェンスのチェンジミスでロングを続けて打たれ、簡単に決められてしまいました。速攻でも、走るコースの選択が悪く、あまり走ってつなげることができず、ミーティングでは今あげたことが出て、解決し、次につなごうと思いましたが、残りの3試合にはユニフォームを着れずにとても悔やしかったです。でもそれ以上に勝てる中国戦に負けたことが何よりも悔やしかったのです。たいした攻撃でもないのにやられたことが非常に悔やまれました。

中国での生活は、何よりも日本よりほど遠く、いろいろな面で遅れているのが目につきました。人々の服装、仕事の進め方など、機械を使わず、人の手で一つ一つ仕事を積み重ねていく姿がとてももどかしく感じました。また、街のお店やデパートなど日本のデパートとは雲泥の差があり、人もほとんどいない、外観は今にもつぶれそうな雰囲気で、すべてに驚きを感じました。でも建物の一つ一つは大きくてしっかりしていて、中国の古い歴史を感じ、また昔の人の頭の良さ、指導力など、想像もつかないことがたくさんありました。

また、この時期に中国に2週間余り滞在できたことは、一生の思い出として心に残るものだと思います。

小深田由紀子

初戦の中国に敗れ、残り3試合をなんとしても勝ちたいという気持ちでした。

2試合目の香港戦は快勝、次は台湾戦。

台湾チームは、ジュニアの年齢層で17歳平均くらいの若いチームです。実際、私がジュニアで台湾に遠征した時に観客として来ていた子が台湾のゴールを守っていたのです。

勝てる自信はありましたが、何故か侮れないという気持ちと妙なテンポの攻撃に対して、自分の力が出しきれるかという不安がありました。というのも、台湾―韓国戦を見学した時に、点差はあるものの、前半のスタートはクィックシュートを決められ苦戦を強いられ、何故あのシュートが取れないのだろうというGKの動きもあり、私がゴールに入った時にあのシュートは取れるだろうかと考えてしまいました。

いよいよ試合開始。何が原因かわからないけれど、やはり韓国―台湾戦のようなペースで試合が流れていく。わかっていても少しタイミングがずれているのか、ゴールインしてるボールを見てショックを受けてしまったりする場面もありました。後半は一気に離して勝負が決まり、10点以上の点差はあったものの、結果が出て胸をなでおろしたという感じでした。今回は残念ながら3位という結果に終りましたが、この大会に出場し、試合の中で得たものをこれからのステップにし、一日も早く〝強い日本〟と呼ばれるように努力していきたいと思います。

ご声援ありがとうございました。

市来未央

8月20日から8月29日までアジア選手権で、その間に、万里の長城と天安門広場に行きました。万里の長城では、あまりの偉大さに感動しました。一部分しか登らなかったのですが、登っている途中、急な上り坂だったので景色を見ることを忘れて足元ばかり見てたし、とっても疲れました。本当に一部だけ登って疲れたのに、これをもっと長い距離あってこの万里の長城を機械を使わず人の力で築き上げたことは素晴らしいと思うし、どのようにして築き上げたか少し興味があります。

天安門広場では、日本にもニュースであったように戒厳令で、周りは軍人の人がいて、常に見られている、という感じでいい気分ではなかったです。戦車が通った跡もあったし、血痕もまだ残っていたし、階段も潰れていたのでニュ

ースで開いたことを目で見たので、不思議な気持ちでした。中国は何度も行けない所なので、今回遠征を通じて行けたことは良い経験になったと思います。

小池美由紀

8月18日、大丈夫だろうか、という不安を抱きながら中国の北京へと出発した。

今回のアジア選手権には、中国、香港、台湾、韓国、日本の5ヶ国が参加した。

初戦はいきなり中国。世界選手権へのキップがかかっているとあって、絶対中国を倒そうとみんな気合を入れて試合に臨んだが21対25で敗戦。あとひと息という悔いの残る試合だった。第2戦目は香港。この試合は全く危なげない展開で49対6の大差で勝った。

第3戦目は台湾。この試合に負けると世界選手権へ行けないということで絶対に負けられない試合だった。朝9時45分より試合が始まった。朝の試合のせいか、いまひとつ自分たちのペースでできなく、前半戦は得点はするものそのあとを守れず得点される、ミスは連鎖反応的にしてしまうという感じで前半戦は10対8というスコアーだった。自分自身もこの試合が初めてのスタメン出場。悔いの残らないよう思い切ったプレーを……と思って試合に臨んだが、シュートを何本も外したりと散々だった。ハーフタイムに後半戦に向けての注意を受けると同時に、自分自身もこのままではダメだし何とか気持ちを入れ替えてと思い後半戦に臨んだ。

後半戦は前半戦とは違い、一度リズムに乗るともう日本のペースですることができた。終ってみれば26対15。はじめから後半のようなゲームをしていれば苦戦することなく、もっと楽に勝てた試合だと思う。自分も後半は少しは思った通りのプレーができたように思う。とりあえず勝って良かったと思った。

最終戦は韓国。韓国にひと泡ふかせようと臨み、26対33。なかなか良い試合だったと思う。

全試合を終えて、結果的にはいまひとつかもしれないが、内容的には次への手応えがしっかりとつかめたと思う。今回の経験を次の機会にいい形で生かせるようにしたいと思う。もっと精神的にも強くなって自分の持っている力を十分発揮できるようにしていろいろなことに負けないようにしたい。

今回の中国遠征は試合だけでなく、その他の面でも良い経験になった。厳しい情勢の中での北京での生活。これはもう経験することのできないことだと思う。これらの良い経験をもとに次へ向かって頑張っていきたいと思う。

裴川亜由美

私にとって、正式な国際試合は今回が初めてで、しかも今、どういう情勢なのか行ってみないとわからないという中国の北京で行なわれるということで、非常に不安でした。しかし、着いてみると意外に落ち着いているように思え、そういう面での不安はほとんどなく試合に臨むことができました。

今回、中国、香港、台湾、韓国、日本の5チームで行なわれ、そのうちの第2戦目、香港戦について振り返ってみます。その試合は最初から負ける気など少しもせず臨みました。試合前に監督から、自分たちのプレーをしていくようにと言われていたのですが、最初どうしても相手の遅いペースに飲まれ、ふっと気を抜いた瞬間にやられ、無駄な点を取られてしまいました。時間が経つと共にみんな落ち着いてプレーができるようになり、余裕をもって自分たちのやるべきこともできて来ていたし、色々なコンビを使って試してみたり、確認することもでき、今後の為に役立つ試合になったと思います。結果は、49対6で勝つことができました。

この大会で、特に中国のチームと実際に試合をしてみて、国内で試合する感覚では全然ダメだということを実感しました。今後、この戦経を生かして、そして今回、反省すべき点も忘れずにやっていこうと思います。

初めての正式な国際試合、波乱のあった後の北京での2週間の生活、観光で行ったあの考えられないほど長く続いた万里の長城など一生忘れることのない思い出となる中国遠征でした。

上村多恵子

私が全日本に選ばれ、初のビッグタイトルとなったこのアジア選手権を振り返ってみると、自分自身に対する反省ばかりで、よかったなどとは言えない大会だったように思います。特に中国戦など、落とすことのできない大事な試合だったのに、落としてしまったことは今でも悔やまれます。なぜなら、中国には勝てていた試合だったからです。

中国とは20日の開会式の翌日、初戦で対戦しました。ずらりと並んだ中国選手は、184センチを軸に大柄な選手がそろっていて、私みたいな小柄な選手は、全く見当たりませんでした。ゲームの方は、大柄がそろっているだけに一線ラインで前にピストンするのかと思ったらそうではなく、ラインは一線なのですが全くプレスしてきませんでした。だから、かなり日本のロングシュートが得点できました。結局最後までロングの得点だけに偏り、得点のバランスが悪かったのが敗因になったように思います。

試合以外でも、いろんな観光地に行ったり、ましてやこのような時期に中国に行けたことは、自分にとって最もいい経験をしたと思っています。大会の反省はよくなかったのですが、やはりいい思い出ができたと思います。いろいろご支援下さった方々に深く感謝をしたいと思います。

梅原直美

私にとって初めての経験であるアジア選手権で感じたことは、一つでも多くの試合に出場できるように、またAグループに行くキップを勝ち取りたい気持ちで一杯でした。が初戦で中国に敗れ、キップは取ることができませんでしたが、そこで落ち込んではいられません。中国まで来て何かを得て帰らなければと思い、香港、台湾には順当に勝つことができ、最後に残ったのが韓国です。韓国には何としても勝ちたいという気持ちがあり、全員がいつもとは違って緊張感があったような気がしました。

そして、試合を振り返って見るとスタートからディフェンスで二人が同じ人を見ていたりチェンジができていなかったりとミスが目立ち、相手に連続して点を取られてしまいました。自分では、いつ

もと変わりなくディフェンスをしているつもりでしたが、よく考えて見ると実際に何をしているのか、何をしなくてはいけないのかがわかっていなかったと思います。ベンチからの指示の声などに対しては、反応することができてもからだが動かなかったりしてあっと言う間に前半が終ってしまいました。そして、後半に入ってからはこのままでは何しに中国まで来たのかわからなくなってしまう、自分でできることは全部やってみようと思いながらプレーをしていましたが、20分くらいだったかもしれませんが、必死になったのはこの時が初めてです。遅すぎたのかもしれませんが、次のことを考えれば私自身この次はもしかしてと言う気持を持つことができましたし、みんなも同じように思ったと思います。

次に、私自身の反省ですが直前合宿で毎日毎日言われ続けて来たことが実際試合になってもまた同じようにできなくてたとえばディフェンスでも一歩前に出て止めることやチェンジがうまくいかず、抜かれたりパスが継がったりと全々できませんでした。

攻撃では、ポストにいてもボールをもらいに行く動きやロングシュートを打たせる動きをするわけでもなく、自分で時々邪魔をしているだけなのかなと思う時がありました。

最後になりましたが、これからは自分に足りない所は少しずつでも身につけあとは精神的な面でもう二歩ぐらい成長し、強くなりたいと思います。また、全体的にチャンスの時に細かいミスが多く出たりする所でも負けていると思うし、勝つ為には確実に得点を積んでいかなければダメだと言うことを実感しました。

林　智恵

先日、中国・北京において、アジア選手権大会が開催された。北京というと、あの天安門広場での流血騒動がどうしても頭から離れず、また未だ北京市内は戒厳令がしかれているとのことで、複雑な心境を胸に覚えながらの出発だった。しかし北京に到着し、ホテルへ向かうバスの中から街の様子を見たところ、別にこれといった緊張感もなく、今までと変わりない様子が見受けられ、ひと安心だった。

中国を訪れるのは今回が3回目だ。高校2年の冬、昨年の夏、そして今回。街の様子も、万里の長城も、天安門も以前とは変わりなく、なつかしい思いがした。しかし、天安門広場には戦車の跡が見られ、2ヶ月前に流血騒ぎのあったところに自分が今立っているのかと思うと、何だか身ぶるいがした。観光などの移動もパトカー先頭で、戒厳令下の北京をかい間見た気がした。

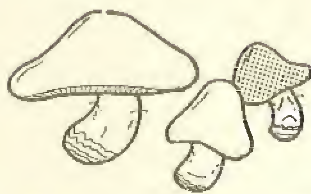
今回こうして無事帰ってこれたのも、協会関係者の方々はじめ、多くの方々の力があったから、と感謝せずにはいられません。このような貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

村山みどり

6月の天安門事件から2ヶ月を経過しているとはいえ、北京にはまだ戒厳令が敷かれている中、第2回アジア選手権大会は開かれた。20日に開会式が行なわれ、そして24日全チーム観光の為、万里の長城と明の十三陵へ向かった。北京市街を抜けると辺りは農村地帯が広がっていた。前に万里の長城へ行った時は、厳しい冬のせいかもしれないが、とても侘しく感じた。今回は真夏で緑が多かったせいかそれほど感じられなかった。

万里の長城は、夏休みのせいかとても混雑していた。平地より少し涼しかったのにもかかわらず長城を登っていくに従って汗だくになってしまった。しかし、このとてつもなく広大な建築物を造り上げた権力というのは相当なものだろう。万里の長城を後にし、十三陵へ私たちは向かった。明の十三陵へは初めて行くわけだが、歴代の皇帝たちの陵墓はみな、地下に造られていると聞いていた。陵墓の一つが見学できるようになっており、地下へと階段を降りた。結構深く何段も降りた後に大きな通路に出た。陵墓はかなり広いようで、通路に従って歩いていくと大理石の大きな扉があり、棺の置かれている部屋があった。そこにこの陵墓にかけられた費用と当時の民衆の総生産量の説明書が壁に掛けられていた。それを見ると、陵墓の建築費用の方が多くなっていた。明の時代の皇帝一人一人の為にこれだけの物を造るには、皇帝の絶大な権力と多大な労力が必要であっただろう。

今回、中国における二大遺跡を緊張感の中見学することができたが、北京市内のあちこちには銃を持った兵士たちをたくさん見かけた。このような状態の中で、観光地や天安門広場を見学でき、試合を行なったということは二度とないだろう。今回、このような経験ができたことに感謝したいと思う。



第28回（女子19回）西日本学生選手権大会

8月22〜26日
福岡大学／福岡歯科大

男子・福岡大　女子・武庫川女大　が優勝

男子

▼予選リーグ

○Aブロック

福岡大 24－18 京教大
福岡大 23－18 天理大
福岡大 30－13 広島大
広島大 20－16 京教大
広島大 19－13 天理大
天理大 21－18 京教大

〔順位〕①福岡大②広島大③天理大④京都教育大

○Bブロック

大経大 33－12 九産大
大経大 30－12 大教大
大経大 32－9 愛知大
九産大 23－22 大教大
九産大 18－17 愛知大
大教大 23－22 愛知大

〔順位〕①大阪経済大②九州産業大③大阪教育大④愛知大

○Cブロック

同大 22－9 福教大
同大 30－12 名大
同大 13－13 京大
京大 19－16 福教大
京大 18－15 名大
福教大 22－15 名大

〔順位〕①同志社大②京都大③福岡教育大④名古屋大

○Dブロック

中部大 31－18 中部大
中部大 37－9 松山大
中部大 39－9 鹿大
桃山学院大 24－10 松山大
桃山学院大 23－16 鹿大
鹿大 20－18 松山大

〔順位〕①中部大②桃山学院大③鹿児島大④松山大

○Eブロック

大体大 12－0 鹿体大
大体大 19－17 名城大
大体大 32－9 近畿大
名城大 57－12 鹿体大
名城大 21－18 近畿大
近畿大 12－0 鹿体大

〔順位〕①大阪体育大②名城大③近畿大④鹿屋体育大

○Fブロック

東和大 31－23 山口大
東和大 27－17 立命館大
東和大 34－14 愛教大
立命館大 25－23 山口大
立命館大 27－18 愛教大
山口大 23－17 愛教大

〔順位〕①東和大②立命館大③山口大④愛知教育大

○Gブロック

中京大 25－16 京産大
中京大 27－15 高知大
中京大 25－15 宮崎大
京産大 18－17 高知大
京産大 24－16 宮崎大
高知大 24－19 宮崎大

〔順位〕①中京大②京都産業大③高知大④宮崎大

○Hブロック

愛知学院大 22－20 関外大
愛知学院大 25－11 愛媛大
関大 17－13 関外大
関大 14－13 愛知学院大
愛媛大 19－18 関大
愛媛大 15－13 関外大

〔順位〕①愛知学院大②関西大③愛媛大④関西外語大

▼決勝トーナメント1回戦

福岡大 37－21 愛知学院大
中部大 29－22 大阪体育大
同志社大 24－22 東和大
大阪経済大 21－19 中京大

▼準決勝

福岡大 22（13－12, 9－9）21 中部大
大阪経済大 30（15－8, 15－5）13 同志社大

▼決勝

福岡大 30（11－14, 19－9）23 大阪経済大

女子

▼予選リーグ

○aブロック

武庫川女大 22－13 福教大
武庫川女大 24－8 中京大
武庫川女大 25－8 琉球大
中京大 28－14 福教大
中京大 21－7 琉球大
福教大 23－7 琉球大

〔順位〕①武庫川女大②中京大③福岡教育大④琉球大

○bブロック

福大 19－14 大教大
福大 27－11 岡山短大
福大 32－7 愛教大
大教大 22－8 岡山短大
大教大 19－3 愛教大
岡山短大 14－10 愛教大

〔順位〕①福岡大②大阪教育大③岡山短大④愛知教育大

○cブロック

中京女大 19－15 天理大
中京女大 35－5 京教大
中京女大 29－3 成蹊大
天理大 29－11 京教大
天理大 34－7 成蹊大
京教大 13－12 成蹊大

〔順位〕①中京女大②天理大③京都教育大④大阪成蹊大

○dブロック

大体大 27－2 関外大
大体大 31－9 広島大
大体大 31－8 九女大
九女大 24－15 関外大
九女大 21－15 広島大
関外大 16－12 広島大

〔順位〕①大阪体育大②九州女大③関西外語大④広島大

▼決勝トーナメント1回戦

武庫川女大 28－21 大体大
福岡大 26－21 中京女大

▼決勝

武庫川女大 21（12－5, 9－5）10 福岡大

各地の記録から・・・

東北

第8回青森県社会人クラブ対抗
（8月6日／青森東高）

〈一部〉
▼1回戦
五鉄 17－9 青商クラブ
紫球会 22－17 東朋会
▼決勝
五鉄 18（8－11 10－7）18 紫球会
3PTC1

〈二部〉
▼1回戦
ごうりき 16－14 暴走乙'89
七戸柏葉 18－16 青森教員団
▼決勝
ごうりき 15（6－5 9－6）11 七戸柏葉

関東

第19回関東クラブ選手権
（7月1日・2日／富岡高校他）

〈男子1部〉
▼1回戦
富岡ク 13－12 日川ク
I・Hク 22－13 日立栃木ク
46G会 20－17 小金ク
桜門ク 32－8 笠間ク
▼準決勝
富岡ク 16－12 I・Hク
桜門ク 28－13 46G会
▼敗者復活1回戦
日川ク 27－8 日立栃木ク
小金ク 15－13 笠間ク
▼代表決定戦
日川ク 30－10 46G会
I・Hク 33－18 小金ク
▼決勝
桜門ク 23（11－7 12－7）14 富岡ク

〈男子2部〉
▼1回戦
学芸球駿会 16－12 笠門クB
マックス 26－16 北ク
甲府ク 19－14 若松ク
みかさくらぶ 24－19 前橋ク
▼準決勝
学芸球駿会 15－14 マックス
甲府ク 24－13 みかさくらぶ
▼決勝
学芸球駿会 20（13－10 7－7）17 甲府ク
▼敗者復活1回戦
笠間クB 23－19 北ク
若松ク 29－24 前橋ク
▼同2回戦
若松ク 29－20 笠間クB

〈女子〉
▼Aグループ
佼成OG 21－18 日川ク
日川ク 19－13 光電ク
光電ク 21－18 佼成OG
〔順位〕①日川クラブ②佼成OG③光電クラブ
▼Bグループ
オレンジク 19－4 和洋ハンドボールク
御城ク 9－6 保土ケ谷ク
オレンジク 17－6 保土ケ谷ク
御城ク 9－5 和洋ハンドボールク
保土ケ谷ク 11－7 和洋ハンドボールク
オレンジク 23－7 御城ク
〔順位〕①オレンジクラブ②御城クラブ③保土ケ谷クラブ④和洋ハンドボールクラブ
▼3位決定戦
佼成OG 18－12 御城ク
▼決勝
オレンジクラブ 15（6－8 9－6）14 日川ク

第5回関東少年少女大会
（7月29日・30日／佐原市民体育館）

〈男子〉
▼1回戦
佐原市スポーツ少年団 10－6 塩山市ハンド・スポ少
筑波学園ハンドク 10－3 我孫子ジュニアB
守谷ク 15－2 坂戸ハンドボールNC
我孫子ジュニアA 26－6 高野スポーツ少年団
▼準決勝
筑波学園ハンドク 9－2 佐原市スポーツ少年団
守谷ク 9－6 我孫子ジュニアA
▼決勝
守谷ク 17（9－2 8－3）5 筑波学園ハンドク

〈女子〉
▼1回戦
坂戸ハンドボールNC 15－13 多摩SHC
日吉台バード 16－4 筑波学園ハンドク
妙義ハンドボールSC 11－5 佐原市スポーツ少年団
守谷ク 10－7 塩山市ハンド・スポ少
▼準決勝
日吉台バード 7－6 坂戸ハンドボールNC
守谷ク 8－6 妙義ハンドボールSC
▼決勝
守谷ク 11（7－4 4－2）6 日吉台バード

〈千葉県協会杯男子〉
▼準決勝
我孫子ジュニアB 9－6 塩山市ハンド・スポ少
高野スポーツ少年団 9－8 坂戸ハンドボールNC
▼決勝
我孫子ジュニアB 8（3－4 5－3）7 高野スポーツ少年団

〈同女子〉
▼準決勝
多摩SHC 13－6 筑波学園ハンドク
塩山市ハンド・スポ少 9－6 佐原市スポーツ少年団
▼決勝
塩山市ハンド・スポ少 16（8－4 8－1）5 多摩SHC

東京都高校総体
（日程・場所不明）

〈男子〉
▼1回戦
東海大菅生 30－4 野津田
府中西 21－20 久留米西
新宿 25－3 正則学園
世田谷工 19－16 江北
駒大高 28－20 日黒
日野 26－7 東大和南
館 18－15 創価
桜水商 20－16 広尾
上野 14－9 修徳
両国 29－10 蒲田
小金井北 23－20 神代
田無 11－9 武蔵
富士 36－14 大泉
筑波大駒場 8－7 大崎
武蔵工大付 15－9 高島
科技学園 23－16 拝島
昭和一 27－7 保谷
東大和 16－12 砂川
深川 18－16 学芸大付

青山学院 41—1 篠崎
石神井 17—8 足立
久留米 23—15 忠生
立川 25—21 清瀬
早実 19—11 城西
江東工 30—8 小石川工
西 38—12 淵江
武蔵村山 32—25 秋川
国分寺 35—6 田無工
南多摩 16—10 武蔵野北
安田学園 16—12 大森東
江戸川 19—14 専大附
墨田川 34—13 白鴎
片倉 12—0 府中工
調布北 28—12 南平
荻窪 18—11 明正
佼成 16—13 青山
東 29—16 水元
八王子東 19—15 日野台
桜美林 18—16 秋留台
光ヶ丘 18—15 駒込
雪谷 20—7 南
日大二 14—7 豊多摩

▼2回戦

東海大菅生 24—15 錦城
中大附 23—17 府中西
新宿 21—14 世田谷工
駒大高 27—20 井草
日野 33—9 福生
東村山 24—11 館
桜水商 不明 鷺宮
両国 26—16 上野
小金井北 25—11 五商
田無 19—14 山崎
富士 19—12 筑波大駒場
早大学院 34—12 武蔵工大付

昭和一 24—21 科技学園
東大和 24—22 富士森
城北学園 29—19 深川
石神井 10—4 青山学院
国立 29—7 久留米
立川 19—10 昭和
早実 15—10 大泉北
西 29—21 江東工
国分寺 28—14 武蔵村山
永山 22—8 南多摩
本所 16—9 安田学園
墨田川 21—19 江戸川
片倉 28—13 北多摩
調布北 29—11 武蔵村山東
小岩 24—1 荻窪
東 25—11 佼成
八王子東 30—10 小平南
三鷹 19—8 桜美林
光ヶ丘 23—4 南葛飾
日大二 19—9 雪谷

▼3回戦

中大附 20—16 東海大菅生
駒大高 27—16 新宿
日野 15—8 東村山
両国 33—13 桜水商
小金井北 22—14 田無
富士 26—20 早大学院
昭和一 18—17 東大和
城北学園 24—18 石神井
国立 26—20 立川
西 22—9 早実
国分寺 16—6 永山
本所 18—15 墨田川
調布北 22—14 片倉
小岩 31—2 東
八王子東 15—12 三鷹

日大二 37—4 光ヶ丘

▼4回戦

駒大高 26—16 中大附
日野 20—11 両国
小金井北 17—14 富士
城北学園 26—14 昭和一
国立 22—17 西
国分寺 21—19 本所
小岩 23—9 調布北
日大二 24—22 八王子東

▼5回戦

明星 46—11 駒大高
成城 22—13 日野
拓大一 11—8 小金井北
城北学園 26—23 農大一
日体荏原 21—15 国立
府中 27—6 国分寺
南野 16—14 小岩
東京 27—5 日大二

▼準々決勝

明星 33—15 成城
拓大一 20—12 城北学園
日体荏原 23—22 府中
東京 27—19 南野

▼決勝リーグ

明星 24—6 拓大一
東京 17—15 日体荏原
明星 33—17 日体荏原
東京 15—7 拓大一
日体荏原 18—11 拓大一
明星 26—15 東京

〔順位〕①明星②東京③日体荏原④拓大一

〈女子〉

▼1回戦

東大和 12—0 野津田

日野 22—1 調布北
田無 12—0 武蔵村山
富士森 11—4 南野
府中西

▼2回戦

本所 26—1 白鴎
八王子東 25—4 小金井北
保谷 15—2 東海大菅生
農大一 14—11 井草
桜水商 6—4 園芸
館 8—3 砂川
東大和 18—8 桐朋
墨田川 14—2 東
日野 9—7 五商
小平 14—6 府中東
富士 25—0 三商
大崎 9—8 上野
神代 23—12 国立
東大和南 15—10 東村山
日大二 11—9 蒲田
明星学園 23—7 田無
久留米 8—6 武蔵野北
豊多摩 12—2 学芸大附
富士森 17—7 福生
武蔵野女 30—4 武蔵村山東
雪谷 6—1 目黒
農業 15—1 府中西
日野台 14—6 文華女
西 13—6 荻窪
共立第二 11—7 清瀬
国分寺 23—2 明泉鶴川

▼3回戦

本所 12—0 一商
八王子東 14—8 保谷
農大一 20—3 桜水商
東大和 18—3 館

八雲学園 14—7 墨田川
日野 16—8 小平
富士 21—7 大崎
神代 23—3 東大和南
小岩 12—8 日大二
明星学園 24—1 久留米
豊多摩 9—3 広尾
富士森 17—6 武蔵野女
青山学院 10—1 雪谷
農業 9—7 日野台
江戸川 11—6 西
共立第二 10—5 国分寺

▼4回戦

八王子東 14—10 本所
東大和 22—4 農大一
八雲学園 7—6 日野
神代 12—10 富士
明星学園 19—5 小岩
富士森 16—2 豊多摩
青山学院 11—5 農業
江戸川 12—11 共立第二

▼5回戦

文大杉並 28—10 八王子東
東大和 12—11 府中
日体桜華 25—11 八雲学園
石神井 11—8 神代
菊華 18—14 明星学園
藤村女 20—9 富士森
佼成女 19—7 青山学院
江東商 28—5 江戸川

▼準々決勝

文大杉並 26—9 東大和
日体桜華 15—12 石神井
藤村女 15—10 菊華
江東商 18—9 佼成女

▼決勝リーグ

文大杉並 25-10 日体桜華
江東商 19-15 藤村女
文大杉並 18-18 藤村女
日体桜華 17-17 江東商
日体桜華 14-11 藤村女
文大杉並 18-13 江東商
〔順位〕①文大杉並②江東商③日体桜華④藤村女

千葉県中学総体

（日程、場所不明）

〈男子〉

▼1回戦
野田一 19-12 佐原
誉田 14-13 葛飾
逆井 17-13 花見川二
市川 9-7 花園
福栄 18-12 南流山
江原塚 14-9 柏南部

▼2回戦
妙典 22-8 野田一
逆井 18-11 誉田
市川 17-5 福栄
東邦大付東邦 27-9 江原塚

▼準決勝
妙典 23-10 逆井
東邦大付東邦 17-14 市川

▼決勝
妙典 10（6-5、4-3）8 東邦大付東邦

〈女子〉

▼1回戦
昭和 21-8 白井
佐原二 19-0 聖徳
葛飾 21-3 西志津
市川二 36-4 湖北台
逆井 14-7 若松

▼2回戦
花園 11-5 昭和
佐原二 9-8 葛飾
市川二 20-8 野田一
二宮 29-7 逆井

▼準決勝
花園 24-5 佐原二
二宮 18-16 市川二

▼決勝
花園 11（3-3、8-6）9 二宮

第7回千葉県高校ジュニア選手権

（8月24～26日、9月3日／東京学館ほか）

〈男子〉

▼決勝トーナメント1回戦
京葉 15-13 柏南
我孫子 11-9 木更津
八千代 13-10 芝工大柏
二松沼南 8-7 小金

▼2回戦
東京学館浦安 22-3 京葉
東京学館 25-8 我孫子
東邦 18-12 八千代
二松沼南 15-6 泉

▼決勝リーグ
東京学館 20-14 二松沼南
東京学館浦安 17-10 東京学館
東京学館浦安 18-8 二松沼南
※東邦は棄権。
〔順位〕①東京学館浦安②東京学館③二松学舎沼南

〈女子〉

▼決勝トーナメント1回戦
若葉看護 9-3 佐原女
流山中央 13-5 幕張北
東邦 24-5 佐原
若松 10-4 聖徳

▼準決勝
流山中央 12-5 若葉看護
東邦 15-11 若松

▼3位決定戦
若松 10-9 若葉看護

▼決勝
流山中央 17（12-6、5-9）15 東邦

東海

愛知県高校選手権

（7月16日～8月5日／県内各地）

▼支部予選会

●名南支部予選

〈男子〉

▽1回戦
松蔭 9-7 同朋
名古屋南 11-8 東郷
向陽 26-6 名市工
中村 16-8 天白
豊明 14-2 名商大付
南陽 16-5 富田

▽2回戦
松蔭 11-10 惟信
鳴海 8-7 名古屋南
星城 13-6 名城大附
向陽 15-7 享栄
中村 15-13 熱田
豊明 12-9 日進西
昭和 15-10 名古屋大谷
緑 22-4 南陽

▽3回戦
鳴海 12-7 松蔭
向陽 16-12 星城
中村 15-8 豊明
緑 21-8 昭和

▽準決勝
向陽 19-15 鳴海
緑 23-12 中村

▽決勝
緑 17-6 向陽

〈女子〉

▽1回戦
東郷 20-3 日進
鳴海 17-4 熱田
中川崎 11-8 緑

▽2回戦
惟信 8-7 東郷
若宮商 17-6 日進西
鳴海 26-1 高蔵
中川商 15-7 名古屋南
南陽 16-10 豊明
向陽 6-5 名女大
星城 12-2 中村

▽3回戦
若宮商 16-7 惟信
鳴海 22-6 松蔭
中川商 11-9 南陽
星城 8-3 向陽

▽準決勝
若宮商 12-7 鳴海
中川商 16-4 星城

▽3位決定戦
鳴海 13-6 星城

▽決勝

中川商 14-8 若宮商

●名北支部予選

〈男子〉

▽1回戦

春日井 37-14 東邦
千種 27-11 名学院
東山工 16-13 名大付
春日井南 21-14 旭野
春日井東 19-13 瀬戸
山田 不戦勝 瀬戸北
北 19-9 名古屋西
愛知工 25-11 長久寺
春日井工 19-17 名東
春日井西 19-12 栄徳
市工芸 14-13 明和

▽2回戦

愛知 17-16 春日井
千種 20-12 東山工
春日井南 21-7 春日井東
守山 27-11 春日丘
菊里 29-6 山田
愛知工 21-17 北
春日井西 25-11 春日井工
高蔵寺 19-4 市工芸

▽3回戦

愛知 21-12 千種
春日井南 20-14 守山
菊里 23-12 愛知工
春日井西 20-16 高蔵寺

▽準決勝

愛知 22-19 春日井南
菊里 22-19 春日井西

〈女子〉

▽1回戦

淑徳 16-8 瀬戸
高蔵寺 10-10 名古屋商
2PTC1
名古屋西 19-9 名東
明和 18-15 千種
北 10-10 春日井西
2PTC1
春日井南 20-11 西陵商
瀬戸西 20-2 長久寺
東邦 8-6 瀬戸北

▽2回戦

春日井 20-17 淑徳
高蔵寺 14-12 菊里
市邨 24-6 名古屋西
明和 12-12 春日井商
2PTC1
北 13-10 椙山
旭野 18-11 春日井南
春日井東 15-11 瀬戸西
愛知商 23-0 東邦

▽3回戦

春日井 28-10 高蔵寺
市邨 19-10 明和
旭野 16-4 北
愛知商 24-12 春日井東

▽準決勝

春日井 31-7 市邨
愛知商 21-16 旭野

●尾張支部予選

〈男子〉

▽予選リーグ

○Aブロック

稲沢 12-10 尾関
稲沢 16-8 西春
稲沢 16-5 新川
尾関 15-12 西春
尾関 19-13 新川
西春 20-16 新川

○Bブロック

犬山 6-5 丹羽
犬山 19-7 稲沢東
犬山 20-6 平和
丹羽 24-10 稲沢東
丹羽 17-8 平和
稲沢東 18-8 平和

○Cブロック

五条 19-7 小牧工
五条 24-4 大成
五条 23-0 岩倉
小牧工 20-4 大成
小牧工 17-13 岩倉
大成 16-13 岩倉

○Dブロック

犬山南 19-8 一宮西
犬山南 24-5 一宮南
犬山南 29-4 津島東
一宮西 20-7 一宮南
一宮西 20-2 津島東
一宮南 13-8 津島東

○Eブロック

蟹江 12-12 一宮北
蟹江 26-13 津島
一宮北 12-10 津島

○Fブロック

一宮 18-9 小牧南
一宮 19-8 弥富
一宮 21-4 一宮工
小牧南 15-6 弥富
小牧南 37-8 一宮工
弥富 16-9 一宮工

○Gブロック

一宮興道 13-10 美和
一宮興道 20-2 江南
美和 11-9 江南

○Hブロック

佐織工 16-11 尾西
佐織工 25-11 起工
尾西 14-12 起工

▽決勝トーナメント1回戦

尾西 12-10 稲沢
美和 13-11 犬山
五条 12-11 小牧南
犬山南 23-11 一宮北
一宮西 13-12 蟹江
一宮 19-6 小牧工
一宮興道 16-10 丹羽
佐織工 20-9 尾関学園

▽2回戦

尾西 15-5 美和
犬山南 29-11 五条
一宮 10-7 一宮西
一宮興道 11-10 佐織工

▽5位決定戦

五条 17-8 美和
佐織工 14-11 一宮西
五条 19-18 佐織工

▽準決勝

犬山南 24-13 尾西
一宮興道 15-10 一宮

▽3位決定戦

尾西 15-11 一宮

▽決勝

犬山南 22-8 一宮興道

〈女子〉

▽予選リーグ

○Aブロック

津島 13-9 犬山南
津島 9-6 尾北
犬山南 20-11 尾北

○Bブロック

尾西 12-11 西春
尾西 18-3 江南
西春 21-6 江南

○Cブロック

佐屋 29-4 美和
佐屋 27-11 平和
佐屋 28-2 一宮南
美和 28-7 平和
美和 11-9 一宮南
平和 12-11 一宮南

○Dブロック

木曽川 11-4 一宮商
木曽川 20-2 一宮北
一宮商 13-3 一宮北

○Eブロック

一宮女 21-8 五条
一宮女 22-7 一宮西
一宮女 25-3 蟹江
五条 24-2 一宮西
五条 21-2 蟹江
一宮西 12-8 蟹江

○Fブロック

一宮 11-10 新川
一宮 11-7 岩倉
新川 16-8 岩倉

▽決勝トーナメント1回戦

五条 24-7 新川
尾西 18-13 一宮商
一宮女 24-4 美和
犬山南 18-15 西春

▽2回戦

五条 19-7 津島
佐屋 26-7 尾西
一宮女 15-6 木曽川
犬山南 19-5 一宮

▽5位決定戦

尾西 17-6 津島
木曽川 21-7 一宮
木曽川 14-6 尾西
▽準決勝
佐屋 16-8 五条
一宮女 33-4 犬山南
▽3位決定戦
五条 12-11 犬山南
▽決勝
一宮女 9-3 佐屋

◎西三河支部予選会
〈男子〉
▽1回戦
安城南 24-9 碧南工
幸田 20-13 安城
岡崎西 23-11 刈谷工
三河 15-10 衣台
刈谷 16-13 豊田
三好 14-7 吉良
豊田南 21-7 西尾東
碧南 10-8 西尾
安城東 14-8 刈谷北
岡崎工 23-4 愛教大附
豊田工 11-10 高浜
一色 14-12 豊野
▽2回戦
岡崎工 29-14 安城南
岡崎西 32-6 幸田
三河 17-15 刈谷
岡崎北 23-4 三好
知立東 14-8 豊田南
安城東 15-4 碧南
岡崎東 20-2 豊田工
岡崎 17-5 一色
▽3回戦
岡崎西 20-19 岡崎工
三河 26-17 岡崎工
知立東 18-7 安城東
岡崎東 17-14 岡崎
▽5~8位決定リーグ
岡崎工 23-10 岡崎
岡崎工 33-20 安城東
岡崎北 22-20 岡崎工
岡崎北 20-12 安城東
岡崎 12-8 岡崎北
岡崎 16-12 安城東
▽決勝リーグ
岡崎西 28-17 三河
岡崎西 10-10 知立東
岡崎西 18-15 岡崎東
三河 14-13 知立東
三河 27-11 岡崎東
知立東 19-13 岡崎東
〈女子〉
▽1回戦
豊田東 13-6 岡崎商
西尾 25-1 知立東
知立 11-5 安城
刈谷北 24-9 安城東
岡崎東 16-9 愛教大附
西尾東 27-2 一色
衣台 22-3 幸田
刈谷 10-10 3PTC1 安城南
豊田 13-12 岡崎北
岡崎 不戦勝 高浜
吉良 21-11 岩津
豊野 23-2 碧南
▽2回戦
三好 21-1 豊田東
西尾 9-8 知立
岡崎東 18-9 刈谷北
岡崎西 23-6 西尾東
豊田南 10-2 衣台
豊田 16-8 刈谷
岡崎 21-4 吉良
安城学園 22-4 豊野
▽3回戦
三好 20-5 西尾
岡崎西 15-10 岡崎東
豊田南 18-5 豊田
安城学園 20-5 岡崎
▽5~8位決定リーグ
岡崎東 10-9 岡崎
岡崎 13-6 西尾
岡崎東 23-10 豊田
岡崎 5-4 西尾
岡崎 15-11 豊田
西尾 15-11 豊田
▽決勝リーグ
安城学園 18-12 三好
安城学園 16-8 豊田南
安城学園 18-12 岡崎西
三好 11-4 豊田南
三好 19-5 岡崎西
豊田南 6-4 岡崎西

●知多支部予選会
〈男子〉
▽予選リーグ
○Aブロック
半田東 20-7 大府東
半田東 30-6 常滑北
半田東 21-6 武豊
大府東 19-5 常滑北
大府東 14-8 武豊
武豊 19-12 常滑北
○Bブロック
半田工 16-7 半田
半田工 22-14 阿久比
半田工 19-10 横須賀
半田 13-10 阿久比
半田 11-6 横須賀
阿久比 19-7 横須賀
○Cブロック
大府 18-8 東浦
大府 16-11 知多東
大府 26-13 東海南
大府 22-15 知多
東浦 11-10 知多東
東浦 11-4 東海南
東浦 21-6 知多
知多東 20-12 東海南
知多東 18-12 知多
東海南 13-12 知多
▽4~6位決定リーグ
半田 9-7 大府東
半田 10-7 東浦
大府東 10-9 東浦
▽1~3位決定リーグ
半田工 18-15 大府
半田工 10-10 半田東
大府 14-13 半田東
〈女子〉
▽予選リーグ
○Aブロック
半田 19-14 東海商
半田 17-5 常滑北
半田 25-2 東海南
東海商 5-3 常滑北
東海商 12-7 東海南
常滑北 9-6 東海南
○Bブロック
半田商 24-4 桃陵
半田商 21-2 大府
半田商 24-1 東浦
半田商 不戦勝 知多
桃陵 13-9 大府
桃陵 13-4 東浦
桃陵 不戦勝 知多
大府 6-5 東浦
大府 19-1 知多
東浦 11-1 知多
○Cブロック
武豊 11-9 半田東
武豊 8-8 阿久比
武豊 19-6 内海
武豊 15-2 知多東
半田東 15-2 阿久比
半田東 9-8 内海
半田東 18-1 知多東
内海 11-8 阿久比
内海 16-3 知多東
阿久比 13-9 知多東
▽4~6位決定リーグ
半田東 9-3 東海商
半田東 8-2 桃陵
東海商 9-9 桃陵
▽1~3位決定リーグ
武豊 8-7 半田商
武豊 9-8 半田
半田商 13-11 半田

●東三河支部予選会
〈男子〉
▽予選リーグ
○Aブロック
蒲郡 14-11 国府
蒲郡 16-12 時習館
蒲郡 29-6 豊橋商
国府 16-11 時習館
国府 22-12 豊橋商

時習館 19－9 豊橋商

○Bブロック
豊川工 9－5 豊橋南
蒲郡東 11－10 豊川工
豊川工 21－11 御津
豊橋南 15－8 蒲郡東
豊橋南 11－8 御津
蒲郡東 20－10 御津

○Cブロック
桜丘 16－7 豊橋西
桜丘 17－11 三谷水産
桜丘 16－3 新城東
豊橋西 14－13 三谷水産
豊橋西 13－9 新城東
三谷水産 18－9 新城東

○Dブロック
豊橋工 18－13 豊丘
豊橋工 17－12 豊橋東
豊丘 15－10 豊橋東

▽決勝トーナメント1回戦
蒲郡 18－16 豊橋西
豊橋工 25－14 豊橋南
桜丘 18－7 豊丘
国府 23－17 豊川工

▽準決勝
蒲郡 27－19 豊橋工
桜丘 15－13 国府

▽3位決定戦
国府 17－14 豊橋工

▽決勝
桜丘 17－8 蒲郡

〈女子〉

▽予選リーグ

○Eブロック
豊橋西 23－8 御津
豊橋西 15－7 蒲郡
豊橋西 不戦勝 新城
御津 11－5 蒲郡
御津 不戦勝 新城
蒲郡 不戦勝 新城

○Fブロック
豊橋南 13－11 蒲郡東
豊橋南 16－7 新城東
蒲郡東 11－6 新城東

○Gブロック
時習館 11－8 豊橋東
時習館 19－6 国府
豊橋東 12－6 国府

○Hブロック
豊橋商 15－5 豊丘
豊橋商 25－12 宝陵
豊丘 16－11 宝陵

▽決勝トーナメント1回戦
豊橋西 19－8 豊橋東
豊橋商 17－8 蒲郡東
時習館 16－4 御津
豊橋南 22－7 豊丘

▽準決勝
豊橋商 22－10 豊橋西
豊橋南 18－5 時習館

▽3位決定戦
豊橋西 10－9 時習館

▽決勝
豊橋商 11－8 豊橋南

▼県大会

〈男子〉

▼1回戦
岡崎西 36－11 蒲郡
春日井南 14－10 知立東
名南工 11－9 旭丘
桜丘 17－12 尾西
犬山南 28－16 春日井西
菊里 24－10 半田
五条 21－15 三河
東海 26－14 大府
桜台 42－12 豊橋工
一宮興道 24－24 瑞陵 3PTC2
佐織工 22－19 岡崎東
緑 23－12 一宮
岡崎工 23－16 半田工
向陽 27－15 国府
愛知 22－17 半田東
中京 25－8 岡崎北

▼2回戦
春日井南 24－14 岡崎西
名南工 20－17 桜丘
犬山南 20－18 菊里
東海 23－16 五条
桜台 29－12 一宮興道
緑 24－17 佐織工
向陽 28－24 岡崎工
中京 22－21 愛知

▼3回戦
春日井南 19－11 名南工
東海 23－13 犬山南
桜台 26－10 緑
中京 20－16 向陽

▼準決勝
春日井南 21－19 東海
桜台 21－12 中京

▼決勝
桜台 20（10－3，10－7）10 春日井南

〈女子〉

▼1回戦
東海女 25－8 尾西
岡崎 11－10 犬山南
佐屋 27－7 豊橋西
三好 19－3 豊橋商
武豊 16－12 岡崎東
緑丘商 19－8 木曽川
豊田南 9－8 若宮商
天白 10－9 半田東
中京女 28－8 桜台
岡崎西 25－12 春日井
半田 15－8 中川商
市邨 17－13 豊橋南
一宮女 12－12 半田商 2PTC1
鳴海 21－17 時習館
五条 17－12 愛知商
安城学園 25－6 旭野

▼2回戦
東海女 34－2 岡崎
三好 16－11 佐屋
緑丘商 10－10 武豊 3PTC2
豊田南 15－6 天白
中京女 20－12 岡崎西
半田 18－9 市邨
一宮女 20－11 鳴海
安城学園 24－15 五条

▼3回戦
三好 11－7 東海女
緑丘商 16－7 豊田南
中京女 25－14 半田
安城学園 23－11 一宮女

▼準決勝
三好 18－14 緑丘商
中京女 17－15 安城学園

▼決勝
三好 9（5－5，4－2）7 中京女

第7回松野杯岐阜県高校

（8月22日・23日／岐阜南高校）

〈男子〉

▼1回戦

大垣南 19－3 各務原東
羽島北 13－12 海津
岐阜工 12－0 不破
長良 14－12 池田
多治見北 19－12 中濃西

▼2回戦

大垣南 17－10 美濃加茂
羽島北 14－10 益田南
長良 14－7 岐阜工
多治見北 12－0 羽島

▼準決勝

羽島北 15－12 大垣南
多治見北 13－10 長良

▼決勝

羽島北 18（10－5、8－4）9 多治見北

〈女子〉

▼1回戦

大垣女 5－4 羽島北
不破 16－13 岐阜南
郡上 24－7 池田

▼2回戦

長良 9－6 大垣女
加納 13－4 大垣東
益田南 18－8 不破
益田 14－13 郡上

▼準決勝

加納 9－5 長良
益田 16－6 益田南

▼決勝

益田 9（6－2、3－4）6 加納

第6回東海地区少年少女交流会

（9月15日／鈴鹿市スポーツセンター体育館）

〈男子〉

▼リーグ戦

笹川 2－1 大垣市
鈴鹿 5－3 正色
愛知 5－0 金三重
笹川 2－1 愛知
鈴鹿 4－2 大垣市
正色 5－2 全三重
笹川 5－4 鈴鹿
愛知 1－1 正色
大垣市 5－2 全三重
笹川 7－1 正色
鈴鹿 10－0 全三重
愛知 5－1 大垣市
笹川 11－0 全三重
正色 4－2 大垣市
鈴鹿 5－3 愛知

〔順位〕①笹川②鈴鹿③愛知④正色⑤大垣市⑥全三重

〈女子〉

▼リーグ戦

笹川 12－4 笠松
全三重 11－1 岐南町
笹川 9－2 全三重
笠松 9－1 岐南町
笹川 18－1 岐南町
全三重 7－7 笠松

〔順位〕①笹川②全三重③笠松④岐南町

第40回三重県総合選手権

（9月10日・24日、10月1日／津東高校、ジャスコ）

〈男子〉

▼1回戦

四日市南高B 棄権 尾鷲ク
鵜ノ森ク 28－10 海星高A
桑名高 28－13 鈴鹿高専B
本田技研 41－3 名張西高
S45四工ク 14－9 桜ク
鳥羽商船OB 23－10 上野工高B
桑名西高A 12－7 川越高
名張西高OB 18－15 津西高
津東高A 12－7 尾鷲高
高田高 14－13 桑名工高B
四日市高B 19－14 鳥羽商船
三重高校選抜 29－10 四日市南高OB
桑名西高B 13－12 九華ク
不断桜 棄権 鈴鹿高専A
尾鷲高B 17－8 四日市中央ク
亀山高 27－19 西笹川ク
津東高B 17－13 桑名北高B
四日市南高A 22－4 津高B
桑名北高A 15－10 上野工高A
桑名工高A 22－9 半田ク
四日市高A 棄権 三菱油化
桑名西高ク 20－13 四日市中央工高
八陵星 19－16 海星高B
四日市工高 30－12 四日市西高

▼2回戦

本田爽風会 38－4 四日市南高A
鳥羽商船OB 22－16 津商A
四日市高C 14－10 桑名西高A
三重高校選抜 22－15 全教員
本田ク 37－12 桑名西高B
四日市高C 14－10 全教員
四日市西郷高 18－6 四日市南高A
むつみヶ丘ク 20－8 桑名北高A
四日市工高 15－14 三重教員
鵜ノ森ク 19－13 桑名高
本田技研 41－3 S45四工ク
津東高A 19－13 名張西高OB
四日市高B 15－5 高田高
不断桜 24－16 尾鷲高B
亀山高 12－9 津東高B
桑名工高A 13－7 四日市高A
桑名西高ク 20－19 八陵星

▼3回戦

本田爽風会 23－14 鵜ノ森ク
本田技研 棄権 鳥羽商船OB
津東高A 15－11 四日市高C
三重高校選抜 22－9 四日市高B
本田ク 30－20 不断桜
四日市西郷高 17－10 亀山高
むつみヶ丘ク 11－10 桑名工高A
四日市工高 31－5 桑名西高ク

▼4回戦

本田技研 29－11 本田爽風会
三重高校選抜 44－16 津東高C
本田ク 33－17 四日市西郷高
四日市工高 25－13 むつみヶ丘ク

▼準決勝

本田技研 40－9 三重高校選抜
本田ク 31－21 四日市工高

▼決勝

本田技研 25（11－6、14－3）9 本田ク

〈女子〉

▼1回戦

暁高 棄権 尾鷲ク
ジャスコA 39－2 四日市南高OG
鳥羽商船 14－11 松阪女高
川越高 7－6 むつみヶ丘ク
桑名西高 28－5 上野高OG
桑名高B 13－4 津高
四日市商高 18－16 四日市南高
津東高B 11－6 四日市西郷高
津東高A 14－7 四日市高B
暁高OG 13－10 桜ク
ジャスコB 棄権 四商OGA
蠹潤蒐 20－6 尾鷲高
四日市高A 10－6 桑名高A
三重大 20－0 上野高
四日市西高 16－13 四商OGB
名張西高 29－0 亀山高

▼2回戦

ジャスコA 20－12 暁高
川越高 12－6 鳥羽商船
桑名西高 14－8 桑名高B
津東高B 13－11 四日市商高
暁高OG 18－5 津東高A
ジャスコB 28－4 蠹潤蒐
四日市高A 棄権 三重大
名張西高 15－10 四日市西高

▼3回戦

ジャスコA 40－1 川越高
津東高B 14－7 桑名西高
ジャスコB 19－4 暁高OG
名張西高 8－6 四日市高A

▼準決勝

ジャスコA 41－3 津東高B
ジャスコB 39－1 名張西高

▼決勝

ジャスコA 32（12－4、20－3）7 ジャスコB

平成元年度A・B級合格者名簿

○A級

錦織 進（北海道）	田中 勇（北海道）	藤原 仁志（秋 田）	小笠原忠芳（岩 手）	高橋 元一（岩 手）
照井 裕幸（宮 城）	星川 威雄（山 形）	佐東 秀治（山 形）	田川 卓史（福 島）	斎藤 仁宏（福 島）
小山 浩（埼 玉）	村松 誠（東 京）	三辻 訓（神奈川）	小坪 新一（富 山）	光安美津夫（富 山）
佐谷 光一（大 阪）	村尾 亮（大 阪）	中園 嘉彦（福 岡）	大和 豊（福 岡）	

○B級

横山 繁（青 森）	渡部 努（秋 田）	高橋 一（秋 田）	長野 和樹（岩 手）	斎藤 輝夫（宮 城）
佐藤 久（宮 城）	伊藤 安敏（宮 城）	尾形 俊賢（宮 城）	佐々木弘幸（宮 城）	佐々木正弘（宮 城）
菊地敬一郎（宮 城）	奥山 壽一（山 形）	穂積 清康（福 島）	橋本 春二（福 島）	遠藤 均（福 島）
上野 覚（福 島）	塩田 幸男（福 島）	仲田 稔（千 葉）	増田 敏雄（千 葉）	武藤 寛（山 梨）
関口 直人（山 梨）	寿川 智博（埼 玉）	安食 邦明（埼 玉）	大東 秀明（東 京）	加藤 益弘（東 京）
中山 恒憲（東 京）	小嶋 啓新（富 山）	幸塚 孝行（富 山）	矢田 晃章（富 山）	藤井 善彦（福 井）
小林 豊（新 潟）	藪内 弘志（三 重）	細井 和夫（愛 知）	中野 正彦（愛 知）	岡本 寿一（大 阪）
山下 公恵（大 阪）	国府 功（京 都）	西 英男（岡 山）	上野 幹彦（岡 山）	丸川 勝巳（岡 山）
大塚 敏明（岡 山）	奥川 和永（岡 山）	西田 恵介（岡 山）	内藤 健（岡 山）	守安 聖友（岡 山）
万代 和孝（広 島）	福岡 篤紀（広 島）	吉兼 敦生（山 口）	田原 和雄（山 口）	吉村 誠司（山 口）
谷口 友一（香 川）	泉谷 俊郎（香 川）	亀井 好弘（香 川）	渡辺 一晶（香 川）	平野 雅也（香 川）
松井 等（香 川）	高橋 卓也（高 知）	石原口秀樹（宮 崎）	米倉 公司（宮 崎）	渡辺 正徳（宮 崎）
中川 栄一（宮 崎）	松森三樹男（兵 庫）	岡辺 清和（兵 庫）	伊藤 徳之（北海道）	

「第41回全日本総合選手権大会」　組合せ

[男子]　12.21　22　23　24　　24　23　22　12.21　[女子]

[男子]

1. 湧　永　製　薬
10:00A
2. 自衛隊横須賀
15:25A
3. トヨタ自動車
10:00B
4. 日　本　大　学
15:25A
5. 福　岡　教　員
12:50A
6. 大同特殊鋼
15:25B
7. バームヒルクラブ
12:50B
8. 日　新　製　鋼
15:05A
9. 本田技研鈴鹿
15:40A
10. 栃の葉クラブ
18:15A
11. トヨタ車体
15:40B
12. 日本体育大学
18:15A
13. 三　陽　商　会
18:30A
14. 早稲田大学
18:15B
15. 全　福　岡
18:30B
16. 大　崎　電　気

[女子]

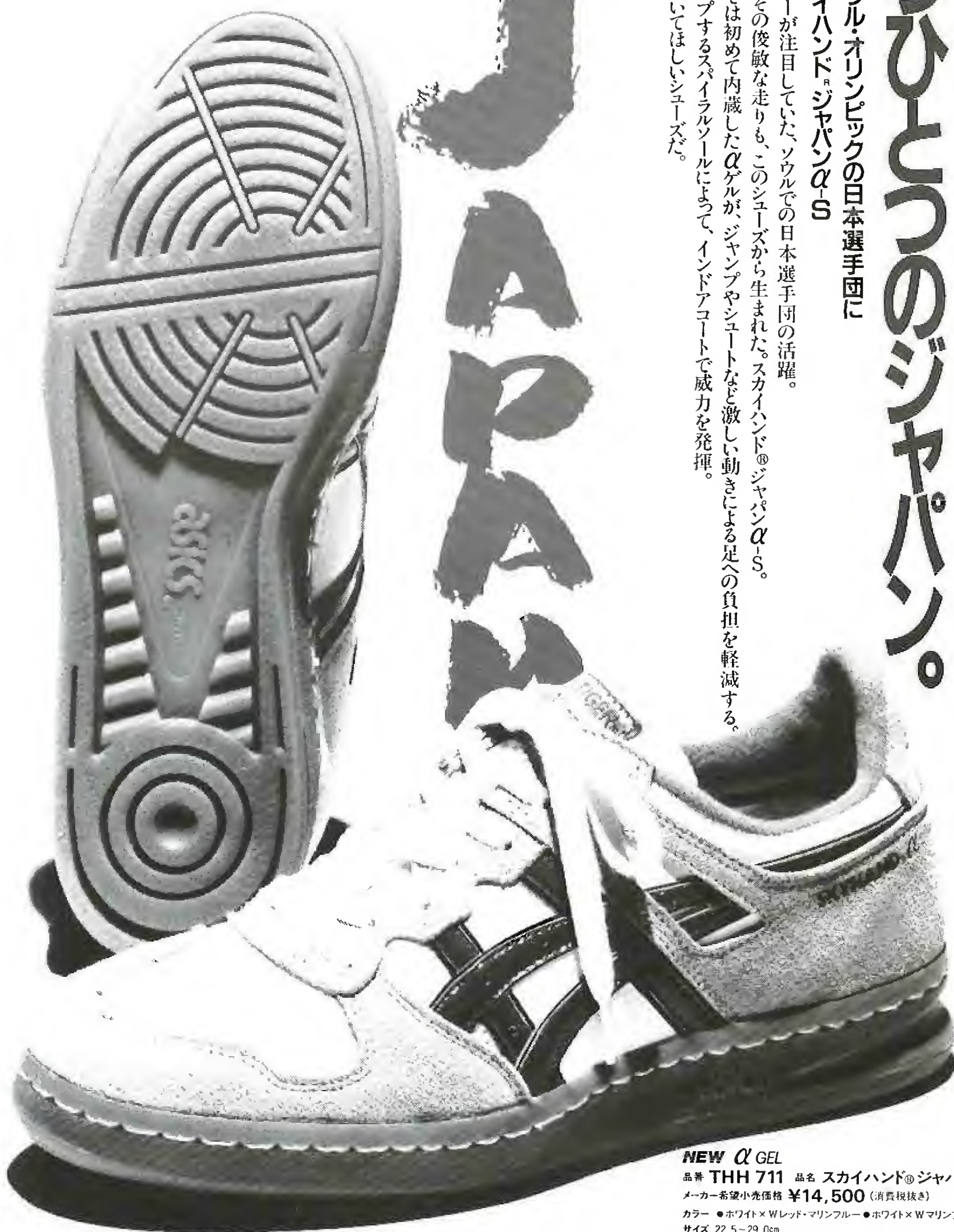
1. 大　崎　電　気
A14:00
2. 武庫川女子大学
B11:25
3. ジ　ャ　ス　コ
A14:00
4. 日　立　栃　木
A14:15
5. 東京女子体育大学
B14:00
6. 小松クラブ
B14:15
7. 日本ビクター
A13:30
8. シャトレーゼ
A17:05
9. 広島クラブ
A16:50
10. 大　和　銀　行
B17:05
11. 日本体育大学
A16:50
12. 北　國　銀　行
A11:25
13. 福　岡　教　員
B　16:50
14. 立石電機山鹿

※12月21日（木）～24日（日）まで
[会場]　A　駒沢屋内球技場
　　　　B　駒沢体育館

ソウルで活躍した、もうひとつのジャパン。

これが頂点。ソウル・オリンピックの日本選手団に採用されたスカイハンド®ジャパンα-S

すべてのハンドボーラーが注目していた、ソウルでの日本選手団の活躍。その鋭い切れ味も、その俊敏な走りも、このシューズから生まれた。スカイハンド®ジャパンα-S。ハンドボールシューズでは初めて内蔵したαゲルが、ジャンプやシュートなど激しい動きによる足への負担を軽減する。吸いつくようにグリップするスパイラルソールによって、インドアコートで威力を発揮。これは、胸をはって履いてほしいシューズだ。



NEW *α GEL*

品番 **THH 711**　品名 スカイハンド®ジャパンα-S

メーカー希望小売価格 **¥14,500**（消費税抜き）

カラー　●ホワイト×Wレッド・マリンブルー●ホワイト×Wマリンブルー・レッド

サイズ　22.5～29.0cm

asics®TIGER®

●商品についてのお問い合わせは株式会社アシックス消費者相談室までどうぞ
〒650 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 TEL(078)303-2233(専用)・(078)303-3333(大代表)
〒130 東京都墨田区錦糸4丁目10番11号 TEL(03)624-1814(専用)・(03)624-2221(大代表)
●Rは㈱アシックスの登録商標です

株式会社アシックス

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二九三号
昭和四十年六月
第三種郵便物認可
平成一年十一月二十六日 印刷
平成一年十二月一日 発行
東京都渋谷区 一−一−一
電話 代表 一三六一
振替 東京 六−五八三四八番
編集兼発行人 安藤純光
定価三百五拾円
(年間購読料三千三百円)